



[第 2 期福知山市環境基本計画（中間整理）]

わ —環境の環づくりをめざして—

平成 27（2015）年度～令和 4（2022）年度



福知山市
Fukuchiyama city

はじめに

福知山市では、持続可能なまちとして、豊かな自然に囲まれたこの素晴らしい環境を将来につなぐため、平成27年3月に計画期間を10年とした第2期福知山市環境基本計画を策定し、将来像の実現に向けて、市民・事業者・市民団体・行政の協働により環境保全の取り組みを推進してまいりました。

計画策定から5年が経過し、この間には、平成27年に国連サミットで採択された持続可能な開発目標「SDGs」をはじめ、国連気候変動枠組条約締結国会議（COP21）において、「パリ協定」が採択されるなど、私たちを取り巻く社会情勢は急激に変化しております。

持続可能な未来を選択する分岐点にある今、本市にもその責務の一端が課せられている中において、平成31年4月に「福知山市クールチョイス宣言」を行い、省エネルギーや再生可能エネルギーの普及促進等による脱炭素社会に向けた取り組みを開始し、令和3年度からは、重点施策として市域における2050年CO2排出量実質ゼロ（ゼロカーボンシティ）および再生可能エネルギー自給率100%（再エネ100）を目指すこととしました。

これら社会情勢の変化に直ちに対応し、本市の未来を決める大切な10年に向けた歩みを進めるため、これまで実施してきた取り組みについて評価を行い、それにより見えてきた課題を踏まえ、次につなげるための整理を行いました。

今後も引き続き、市民・事業者・市民団体と協働して「環境の環（わ）づくり」に取り組んでまいりますので、皆様の御協力をお願い申し上げます。

最後に、本計画のとりまとめにあたり、検討会議に参画し、貴重な御意見、御提案をいただきました福知山環境会議の皆様をはじめとする全ての皆様に心からお礼を申し上げます。

令和3年3月

福知山市長 大橋 一夫





目次

目次	I
第2期環境基本計画の中間整理にあたって	II
序章 福知山市の環境基本計画とは ～計画の基本的事項～	1
1. 計画の目的……………2	
2. 計画の役割……………2	
3. 計画の位置づけ……………2	
4. 計画の期間……………3	
5. 計画の対象……………3	
6. 計画とSDGsの関連性…5	
第1章 福知山の環境将来像 ～こんな福知山にしたい～	6
・総合ビジョン ～私たちが創りあげる明日の福知山～…………… 7	
1 福知山市環境基本計画の理念…………… 8	
2 総合ビジョンの達成度を測る指標と目標…………… 9	
3 総合ビジョン実現に向けたプロジェクトの体系…………… 10	
4 自然のビジョン…………… 11	
5 ひと（まち）・（くらし）のビジョン…………… 16	
6 その他大切にしたいプロジェクト…………… 24	
第2章 リーディングプロジェクト	
～どのようにビジョンを達成していくのか～	26
自然	
・No. 1-1 生きもの調査プロジェクト…………… 27	
・No. 1-2 由良川・里山プロジェクト…………… 28	
・No. 1-3 サケの飼育と採捕・放流プロジェクト…………… 29	
ひと	
・No. 2-1 “福知山市みどりの親善大使” ゴーヤ先生による広報活動プロジェクト …… 30	
・No. 2-2 みどりのカーテン実施率日本一プロジェクト…………… 31	
・No. 2-3 環境セミナープロジェクト…………… 32	
・No. 2-4 雨水の有効利用プロジェクト…………… 33	
・No. 2-5 再生可能エネルギー推進運動プロジェクト…………… 34	
・No. 2-6 福知山グリーン生活情報マップ作成活動プロジェクト…………… 35	
・No. 2-7 ごみの減量と生ごみの堆肥化による資源の有効利用プロジェクト…………… 36	
第3章 計画の進行管理と推進体制	37
1. 計画推進の考え方…………… 38	
2. 進行管理システム…………… 38	
3. 計画の推進体制…………… 40	
資料編	41
・策定の経緯 …… 42	
・SDGsのゴールとターゲットの詳細 …… 44	
・用語解説 …… 46	

第2期環境基本計画の中間整理にあたって



社会状況の変化と今後の方針

本市は、平成27（2015）年3月に「市民・事業者・行政のパートナーシップで実行できる身の丈に合った計画」として「第2期福知山市環境基本計画」を策定し、『～環境の環（わ）づくりをめざして～「地球環境の保全」「自然環境との共生」「循環社会の構築」』を基本理念に、『自然』『ひと』それぞれに関するビジョンからなる具体的な12のリーディングプロジェクトを定め、計画の推進に取り組んでいます。

本計画は、平成27（2015）年4月から令和7（2025）年3月までの10年間を計画期間とし策定され、中間年を経過したところですが、環境問題を取り巻く社会的状況は、計画策定当初に比べ急激に変化しております。

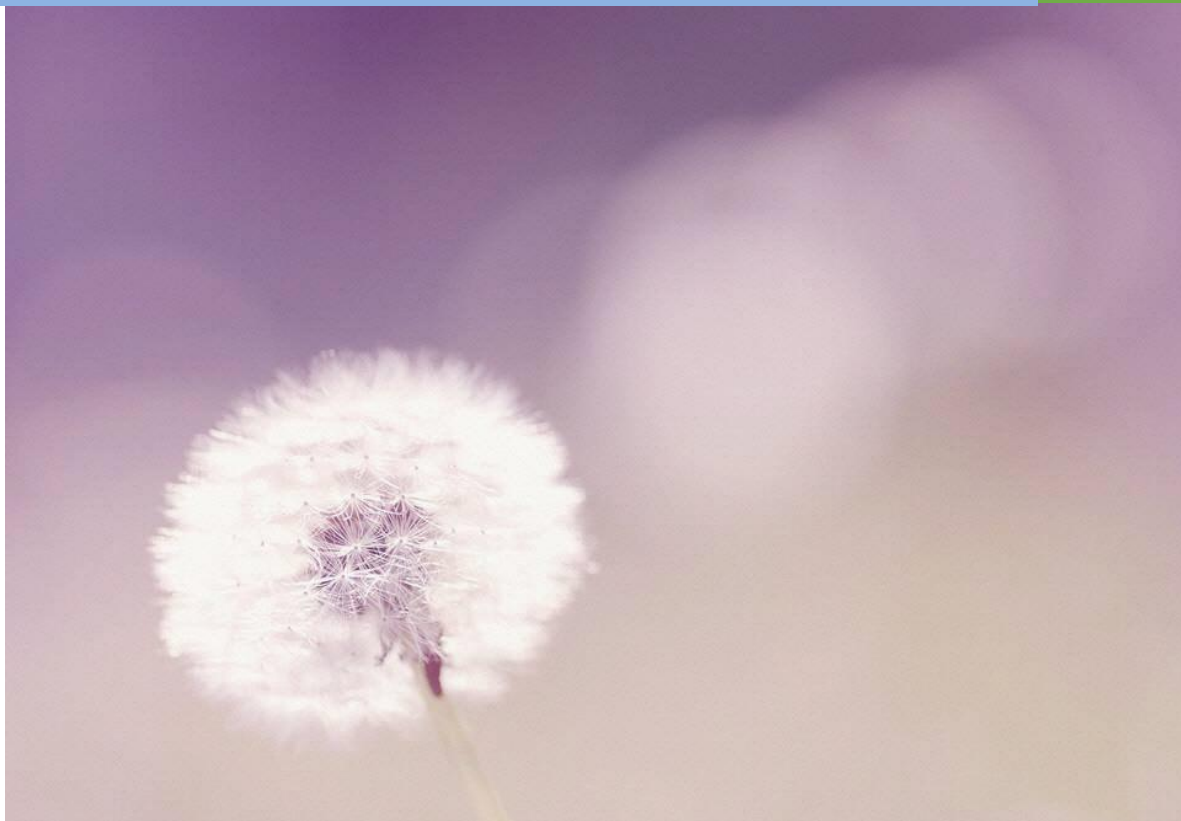
平成27（2015）年9月に国連サミットで持続可能な開発目標（SDGs）を掲げる「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。また、平成27（2015）年12月には、国連気候変動枠組条約締結国会議（COP）において、国際的な気候変動への対応として温室効果ガス削減に向けた取り組みを規定した「パリ協定」が採択され、令和2（2020）年から始動しています。さらに、増え続ける海洋プラスチックごみによる地球規模での環境汚染による生態系等への影響が懸念されており、わが国においても令和元（2019）年5月に「海洋プラスチックごみ対策アクションプラン」が策定されました。

本市においても、国民運動「COOL CHOICE（＝賢い選択）」の趣旨に賛同し、SDGsと密接に関係している地球温暖化対策を進めるため、平成31（2019）年4月に「福知山市クールチョイス宣言」を行い、令和3年度からは、市域における2050年CO2排出量実質ゼロおよび再生可能エネルギー自給率100%を目指し、脱炭素社会に向けた取り組みを開始しています。

こうした情勢の変化に即応するためには、上位計画であり、令和3（2021）年度に策定を予定している総合計画「（仮称）まちづくり構想 福知山」と整合を図りながら、新たな環境基本計画を策定することが急務であると考え、今回、計画の成果を評価し、課題を明確にすることにより今後に向けた整理を行い、新たな計画策定に備えることとします。

序 章 福知山市の環境基本計画とは

～計画の基本的事項～



1. 計画の目的
2. 計画の役割
3. 計画の位置づけ
4. 計画の期間
5. 計画の対象
6. 計画とSDGsの関連性

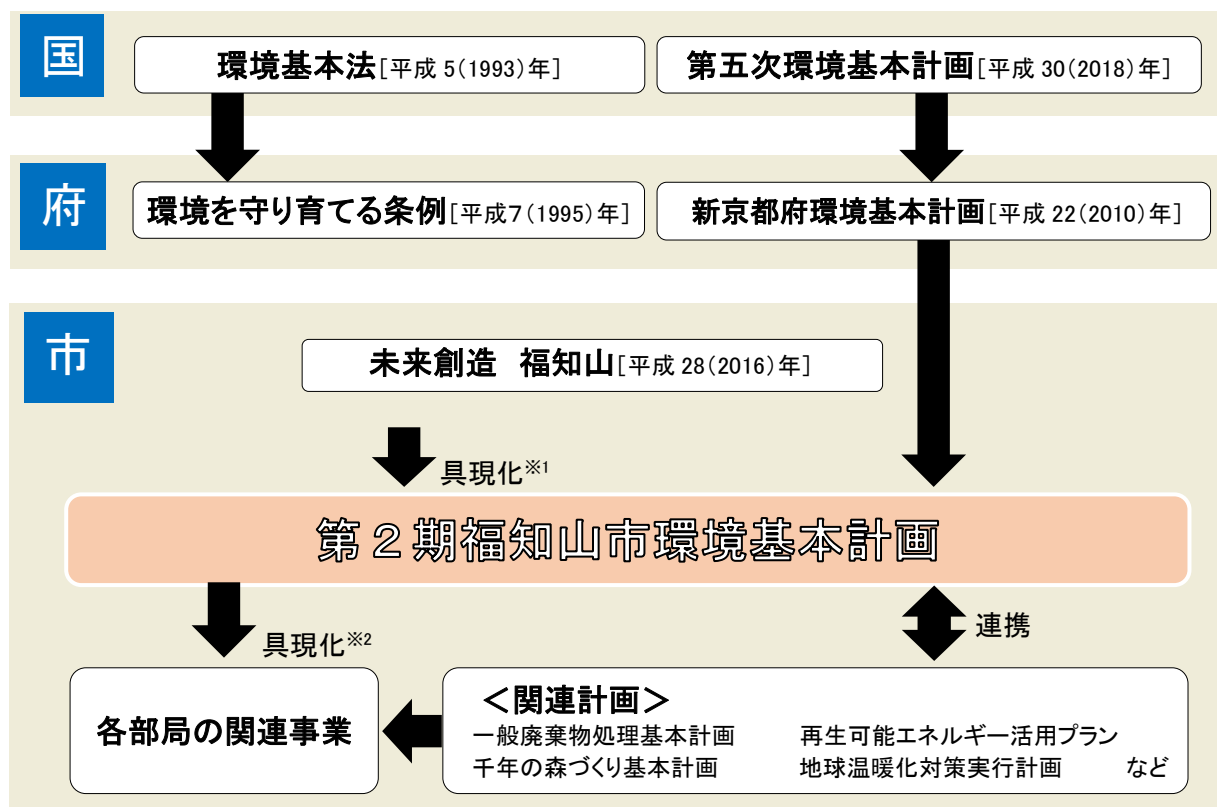
1 計画の目的

私たちの暮らす福知山市のすばらしい環境を 100 年後の子どもたちに引き継ぎ、“持続可能で豊かなまち福知山”を育てていくための環境将来像（ビジョン）や環境施策（プロジェクト）を定め、市民や事業者、市民団体、そして市がパートナーシップを形成しながら環境政策を推進することを目的としてこの計画を策定します。

2 計画の役割

- 実現したい環境将来像（ビジョン）を示します。
- ビジョンを実現するため、市民や事業者、市民団体、市によって取り組むプロジェクトを示し、充実した市民参画とパートナーシップによる環境政策の方向性を示します。
- 本基本計画を総合的かつ着実に推進するための進行管理の方策を示します。

3 計画の位置づけ



※1 「未来創造 福知山」の「施策の大綱」を実現します。

※2 各部局の関連事業を環境の視点で見直し、計画的に推進します。

4 計画の期間

本環境基本計画は、概ね10年間（令和6（2024）年度まで）を策定期間として推進してまいりましたが、環境問題を取り巻く社会状況の激的な変化に即応するため、計画期間を前倒しし、令和3（2021）年度から次期計画の策定に着手し、令和5（2023）年度から新たな計画による環境施策の推進をスタートさせます。

年 度	H27 2015	H28 2016	H29 2017	H30 2018	R1 2019	R2 2020	R3 2021	R4 2022	R5～ 2023～
環境基本計画	第2期環境基本計画							次期環境基本計画	
							新計画 策定期間		
総合計画	未来創造福知山							（仮称）まちづくり構想福知山	

5 計画の対象

① 地理的範囲

計画推進にあたっての活動範囲は福知山市全域を対象としますが、私たちが環境に与える影響については市域を越えた近隣自治体、全国、広くは地球環境まで視野に入れます。

② 推進主体の範囲

- 市民：国籍を問わず市内に在住・通勤・通学するなど計画に賛同する全ての人
- 事業者：市内で事業活動を行っている全ての企業や組合、自営業者
- 市民団体：自治会、ボランティア団体、環境 NPO など、公益活動のために市民によって組織された全ての団体
- 市：施策（プロジェクト）を実行・推進していくために全市的に取り組み、必要であれば京都府、国とも連携していく



③環境の範囲

主な対象		環境問題の原因	環境問題の例示
地球環境	地球	温室効果ガスの大量排出、森林の減少、オゾン層破壊物質放出、産業活動など	地域固有の野生生物種の減少、海水面の上昇、砂漠化、オゾン層破壊、酸性雨など
自然環境	空気(大気)	自動車排気ガス、工場からの排煙など	人の健康被害、PM2.5、自然環境の破壊など
	雨水、河川、ため池	農薬の大量使用、不法投棄、生活排水や工場排水の流入、地下水の汲み上げすぎ、豪雨に対する治水の課題など	水質汚濁、水源の枯渇、地域固有の野生生物種の減少、マイクロプラスチックによる生態系への被害、森・里・川・海のつながりの分断、集中豪雨による冠水など
	農地	化成肥料への依存、農薬の大量使用、獣害、耕作放棄地の増加など	土壌の荒廃、農薬による人の健康被害、自然環境の破壊、地場農産物の衰退、有害鳥獣による農作物被害、野生動物の人里への出没など
	森林、里山、里地、公園緑地	林業の衰退による人工林の放置、自然林の破壊など	里地・里山の荒廃と生活文化の消滅、地域固有の野生生物種の減少、ヒートアイランド現象、憩いの場所の不足、花粉症を引き起こすスギ林など
	動植物	動植物の生息環境の悪化	生物多様性の喪失、外来種の増加による地域固有の野生動植物の減少など
	異常気象	猛暑、集中豪雨の頻発、自然災害の増加など	農作物の品質低下、動植物の分布域の変化、熱中症リスクの増加、大雨による浸水被害、土砂崩れなど
生活環境	身近な水辺や公園、まちなみアメニティ、人間関係、ライフスタイル	身近な自然緑地を守る制度の欠如、都市化とライフスタイルの変化、人間関係の希薄化など	憩いの場の不足、景観の破壊、誰もが利用する道等への配慮、地域コミュニティの崩壊、人間関係の崩壊、犯罪の増加、交通の不便さ、自転車運転マナーの悪化、伝統的行事の消滅、自然と触れ合う機会の減少、時間に追われゆとりのない生活など
		有害化学物質(環境ホルモン)の使用、都市化、建物の機密化、人口密度の増加、水害に弱いまちなど	シックハウス・シックスクール・アトピー、生物のメス化・奇形の誘発、騒音、振動、悪臭、浸水など
経済環境	産業活動	資源の大量使用、経済のグローバル化、利潤主義の横行、将来展望の欠如など	公害による健康被害、食品ロスやプラスチックを始めとする廃棄物の増加、地域経済の衰退、商店街の衰退、雇用の減少など
		エネルギー消費量の増加、化石エネルギーの枯渇、原発再稼働問題など	夏・冬の省エネルギーの対策、節電・節水、原発に依存した社会など

6 計画とSDGsの関連性

持続可能な開発目標（SDGs）とは、平成 27（2015）年 9 月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」にて記載された令和 12（2030）年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。

このSDGsは、気候変動や生物多様性など環境に関する項目だけでなく、地域経済や生活など環境以外の分野についても幅広く目標が掲げられています。こうした目標の達成に向けて取り組みを進めることは、現状の私たちの暮らしや環境をより良くするだけでなく、将来を担う子どもたちのために、持続可能なまちづくりを発展させることにもつながります。

本計画のビジョンは、この考え方と同じ方向性を持つものであり、今後は、SDGsと関連付けて推進することとします。



SDGsの17のゴール

資料：国連広報センター

第1章 福知山の環境将来像

～こんな福知山にしたい～



総合ビジョン

私たちが創りあげる明日の福知山

1. 福知山市環境基本計画の理念
2. 総合ビジョンの達成度を測る指標と目標
3. 総合ビジョン実現に向けたプロジェクトの体系
4. 自然のビジョン
5. ひと(まち)・(くらし)のビジョン
6. その他大切にしたいプロジェクト

総合ビジョン

私たちが創りあげる明日^{あした}の福知山

空は青く澄みわたり、緑あふれる野山には、小鳥のさえずりが聞こえ、由良川にはたくさんの魚が泳ぎ、子どもたちの歓声が聞こえてくる。

花と緑でいっぱいのまちなかは、広々としていて、誰もが歩きやすい。商店街では福知山で収穫された有機野菜たちが店頭をにぎわし、たくさんの買い物客がお店の人と楽しく会話をしながら買い求めていく。

市民は誰もが「もの」を大切にし、クリーンなエネルギーを活用するよう心がけている。

明日の福知山には、お年寄も、若者も、みんなが手を取りあって笑顔で暮らし、学び、行動する姿が見える。

総合ビジョンは、計画策定10年後～四半世紀後の福知山の将来像を表しています。自然を大切にし、人を大切にし、資源を大切にし、その循環（環）を大切にしたい暮らしを営みながら、すばらしい知恵や知識を次世代へとつなげていく“まち”、共に幸せを生きる“福知山”をひとりひとりが創りあげながら実現しています。

1 福知山市環境基本計画の理念

環境福知山イズム＝環境の環^わづくりを目指して

「地球環境の保全」「自然環境との共生」「循環社会の構築」

雨水は山から滲み出し、田んぼに入り、川に流れ、海に注ぎます。そしてふたたび雨になります。こうした水の循環は、その途中でさまざまな生き物を育み、人間生活を潤い豊かなものとしてくれます。だから人々は水を大切にし、動植物たちとともに暮らしてきました。つまり、すべてが「環^わ」としてつながっています。それを今、もう一度思い起こし大切にしたいのです。

この10年においても、地球温暖化の影響による豪雨や暴風の頻発、さらには東日本大震災や火山の噴火による多くの災害が発生しました。私たちは、これらの災害を通して、このままの生活スタイルを続けていくことの限界を感じ、我々に託されている資源の大切さに気づくことができました。また、人々の助け合う暖かさや繋がる絆の大切さも実感することができました。今こそ、市民もこの力を前向きに活かし、省エネの促進と再生可能エネルギーの活用、そして繋がりを活かした環境を守り育てる活動に取り組む必要があると感じています。

この環境基本計画では、現代社会に応じた新しい「環境の環^わ」を創ることを目指しています。そして、それは、福知山市で実現できるものでなければなりません。さらに、福知山市の環境がよくなることで、周辺の地域や日本、さらには地球の環境がよくなることを期待しています。

そのためには、市民一人ひとりが「環境の環^わづくり」を実践することが大切です。一人ひとりの環境に対する意識を高め、集まり、共有し、発信し、活動することの積み重ねが「環境福知山イズム＝環境の環^わ」として実を結ぶと信じます。

【私たちが大切にしていくもの】

- 1 価値観を共有し、かつ共に歩める、誰にも開かれたパートナーシップ型の「環境の環^わづくり」
- 2 自ら考え、工夫し、行動する、市民一人ひとりが主役となる「環境の環^わづくり」
- 3 簡単にあきらめない粘り強い「環境の環^わづくり」
- 4 失敗を恐れない勇気ある「環境の環^わづくり」

【未来に向けて】

- 1 100年後の子どもたちに贈る、豊かな未来を実現する「環境の環^わづくり」
- 2 福知山の風土・歴史・生活を、世代間を通じて引き継ぐ、地域性に満ちた「環境の環^わづくり」
- 3 世界（地域）と人や情報で連携する、開放的な「環境の環^わづくり」

2 総合ビジョンの達成度を測る指標と目標

計画がめざす福知山を確実に創り出していくためには、総合ビジョンの達成状況を総合的に評価する指標が必要です。個々のプロジェクトの進行や効果を示す評価指標は、個別に実施段階で設定していくことになりますが、ここでは計画の総合的な指標とその目標を設定します。

指標 1 > 再生可能エネルギー導入率及び二酸化炭素排出量

- 市域の再生可能エネルギー導入率を指標とします。
 - 市域の二酸化炭素排出量を指標とします。
 - 2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロを目標とします。
 - 公共施設等における再生可能エネルギー100%の早期達成を目標とします。
- （福知山市地球温暖化対策実行計画）

指標 2 > ごみ排出量と資源化率

- 市民一人当たりの家庭系ごみの排出量及び事業系ごみの処理量を指標とします。
 - 資源化率及び最終処分量を指標とします。
 - 2030年度に家庭系ごみ排出量元年度比5%、事業系ごみ処理量元年度比10%以上の削減を目標とします。
 - 2030年度に資源化率28%以上、最終処分量4,300t/年以下を目標とします。
- （福知山市一般廃棄物処理基本計画）

指標 3 > 由良川の水質と水生昆虫

- 由良川の水質（音無瀬橋）と、水生昆虫の棲息状況を指標とします。
- 水質の目標：音無瀬橋の環境基準の達成維持とより改善を目標とします。
- 水生昆虫の目標：音無瀬橋付近で、きれいな水に棲むヘビトンボ・カワゲラがより多く見られることと、少しきたない水に棲むヒラタドロムシ・オオシマトビケラが少なくなり、将来的に見られなくなることを目標とします。

指標 4 > 環境基準

- 以下の項目につき環境基準の達成状況を指標とします。
大気（二酸化硫黄、二酸化窒素、浮遊粒子状物質）、水質（河川水、地下水）、騒音（事業所騒音、自動車騒音）、土壌（土壌中の化学物質）、ダイオキシン類
- 環境基準の達成及び更なる改善を目標とします。

指標 5 > みどり（広葉樹林の面積）

- 市域の広葉樹林の面積を指標とします。
- 毎年、前年と比べ、広葉樹林の面積が減少しないことを目標とします。

3 総合ビジョン実現に向けたプロジェクトの体系

総合ビジョン

私たちが創りあげる明日の福知山

自然

いろいろな生きものが息づく中で、人が自然と共存し
自然の豊かさを次世代に引継ぐ福知山

●生きものと共生し自然遺産を大切にするまち

～生きもの調査や観察を通して、福知山の自然を守り、次世代に伝える～
「生きもの調査プロジェクト」

●自然環境と共生するまち

～河川、里山、農村、まちなかなどで、いろいろな生きものが息づく自然を守る～
「由良川・里山プロジェクト」

●美しい河川を守るまち

～日本最南端のサケが遡上する川として、福知山の河川を守る～
「サケの飼育と採捕・放流プロジェクト」

ひと（まち）・（くらし）

自然の美しさや大切さ、まちの歴史、ひとのやさしさを
再認識し、持続可能性の高いくらしを構築するために、
多くの人とつながりながら、自発的に気づき・学び・
行動できるまち福知山

●気づき・考え・行動できる環境人づくり

～子どもからお年寄りまでが、環境について学び・体験し自ら実践する人づくり～
「環境セミナープロジェクト」

●住んでみたいまち、住むことに誇りを持てるまち

～「福知山らしさ」を見える化し、誇りをもって環境を語り合えるまち～
「“福知山市みどりの親善大使” ゴーヤ先生による広報活動プロジェクト」
「みどりのカーテン実施率日本一プロジェクト」
「福知山グリーン生活情報マップ作成活動プロジェクトー住みたいまち、
福知山にー」

●自然資源の有効利用による安心安全なくらし

～自然エネルギーの活用や雨水の有効利用など地域の資源を大切にするくらし～
「雨水の有効利用プロジェクト」
「ごみの減量と生ごみの堆肥化による資源の有効利用プロジェクト」
「再生可能エネルギー推進運動プロジェクト」

4 自然のビジョン

①市民から見た福知山の現状

福知山のなかで大切にしたいもの

由良川流域の自然、二瀬川、蛍の棲む川、おいしい水・きれいな水・冷たい水、冊子「福知山の自然遺産」に記載のもの（動植物、地形）、動植物の多様性（いろいろな鳥、花）、日本固有の生き物、細野峠など歌に詠まれているところの自然環境、山村部の自然、三岳山・大江山の自然、おいしい野菜、昔のままの道・里の道・村の道、手入れされた耕地、子どもたちが山や川で戯れる場所、自然と触れ合うゆとり

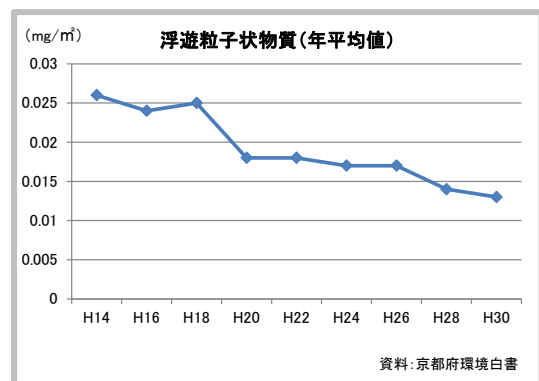
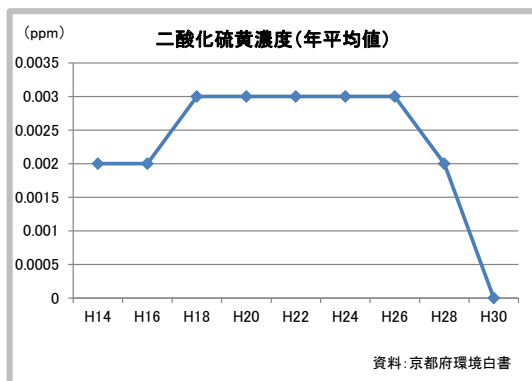
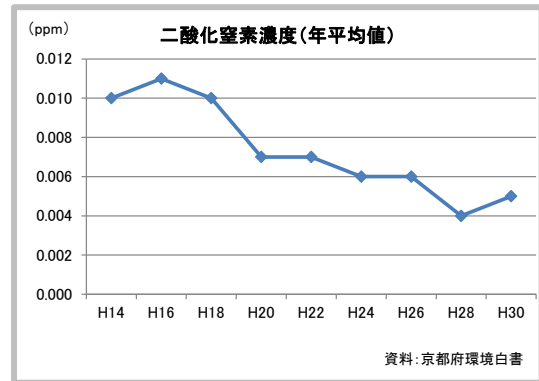
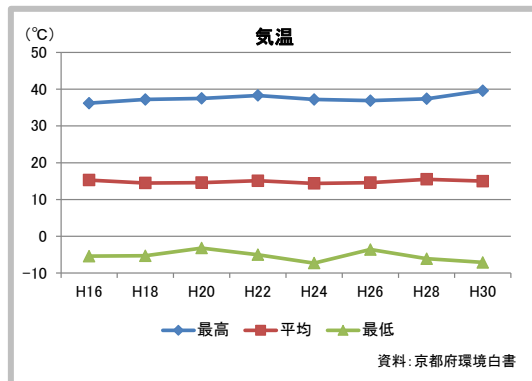
問題だと感じるところ

水	・河川の水質汚濁 ・近くにおいしい水がない ・川遊びをする人が少ない ・川で泳げなくなった
動植物	・外来種が多くなり、元から棲みついていた生物が減少している ・動植物の生息環境の悪化 ・ホタルの生息地の減少 ・田んぼの水路に昔は見られた生き物が、今はほとんど見られない ・河川の整備により、メダカなどがほとんどいなくなった ・花粉症を引き起こすスギ、ヒノキ、セイタカアワダチソウなどが増えている
農山村	・高齢化、過疎化により、里山・山林管理ができなくなっている ・耕作放棄地の増加 ・有害鳥獣による農地田畑の被害 ・農作業を手伝う機会の減少
気象	・集中豪雨が頻発する ・異常気象、自然災害の増加 ・以前に比べ、夏の気温が高い
その他	・どんなに素晴らしい自然があるか知られていない ・自然の中で遊ぶ子どもが少ない ・自然を体験できる機会が減っている ・ごみの不法投棄が多く、自然が汚されている

② 自然環境の現況

大気

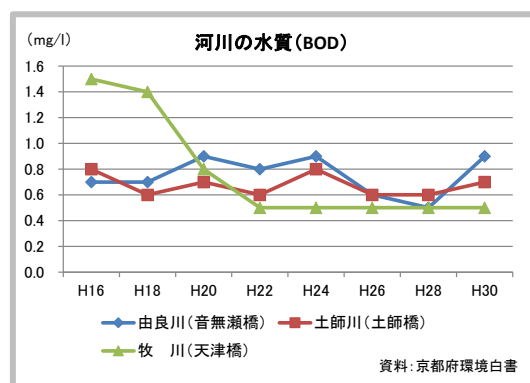
市内には京都府が設置している大気測定局が1箇所あります。二酸化窒素、二酸化硫黄、浮遊粒子状物質いずれも環境基準を達成しています。



水質

市内には環境基準地点が3箇所あります(いずれもA類型)。

BOD(生物化学的酸素要求量)は、いずれも環境基準を達成しています。



※環境基準(A類型): BOD 2mg/l以下

ダイオキシン類

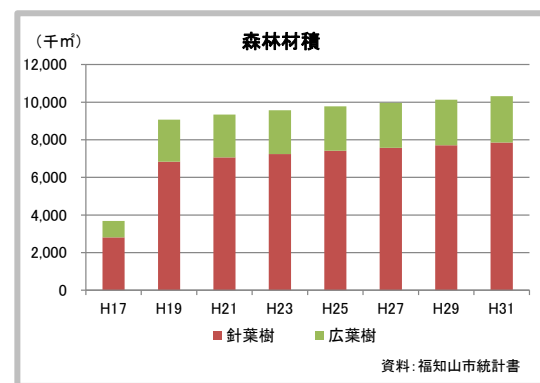
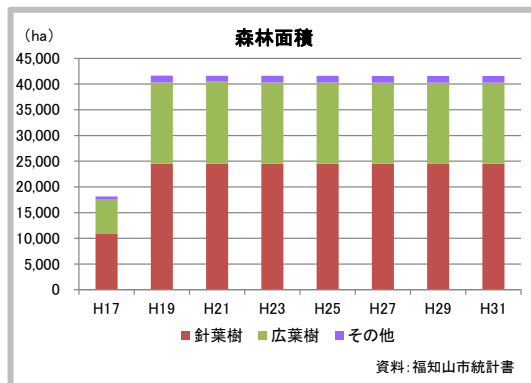
環境中のダイオキシン量を把握するため、京都府が測定しています。平成 30(2018)年度の測定結果によると 4 項目いずれも環境基準を満たしています。

種類	調査地点	測定値	環境基準	単位
大気	市内	0.0079	0.6	pg-TEQ/立方メートル
水質	牧川 天津橋	0.054	1	pg-TEQ/リットル
	牧川 宮川橋	0.055	1	pg-TEQ/リットル
地下水	三俣	0.096	1	pg-TEQ/リットル
	一ノ宮	0.052	1	pg-TEQ/リットル

資料:ダイオキシン類調査

森林面積、林積

本市の林野率は約 76%で、市面積の大半が森林で覆われています。このうち、約 59%は針葉樹となっています。また、針葉樹林の大半は人工林で、間伐等の管理が行き届いていない森林も多くあります。



③市が実施している主な取り組み

- ・福知山市千年の森づくり事業、森林経営管理事業等による森林保全
- ・下水道事業等による水質保全
- ・河川種苗放流事業による水産資源の保全
- ・環境にやさしい農地支援事業等による農地保全
- ・不法投棄防止パトロール事業による環境保全 など

④ビジョンを実現するためのリーディングプロジェクト



生きものと共生し自然遺産を大切にするまち

生きもの調査プロジェクト

関連する
SDGs



6.6



14.1



15.1

15.4

15.5

わが町福知山の生き物の実態を知ってもらうことを目指し、福知山の動植物の現状を調査する。この調査を継続的に行うことで、そこに育まれる生き物や人の生活をより良いものにするための課題を明らかにし、環境改善活動のきっかけとし、さらに環境学習などの基礎資料とする。

「未来創造 福知山」の施策

政策〔第4章4節〕自然環境の保全・共生の推進

施策3. 人と自然が共生する社会を推進する

- ①野生動植物の適正な保護・管理・育成など
生物多様性の保全活動を推進します。



自然環境と共生するまち

由良川・里山プロジェクト

関連する
SDGs



6.6



14.1



15.1

15.2

由良川河川敷には、過去多くの桑が栽培されていた。現在それらは荒廃しており、その場所のごみ放置の場所となっている。これらを由良川でのクリーン活動やごみ調査等も行いながら整備を行い、竹林やフィールドの景観を保ち、木の実を採取したり竹細工や自然観察会などのイベントを開催する。また、荒廃した森林を整備して生活の場として活用できる里山をつくり、自然の恩恵を身体で感じられる里山体験ゾーンを構築して、木育活動の場として活用する。

「未来創造 福知山」の施策

政策〔第4章4節〕自然環境の保全・共生の推進

施策2. 環境保全活動を推進する

- ①農山村や自然環境の持続的な保全管理を推進します。



(明智藪整備活動)

美しい河川を守るまち

サケの飼育と採捕・放流プロジェクト

関連する
SDGs



4.7



6.6



13.3



14.1



15.1

サケを放流し、遡上する川として日本海側で最南限といわれる由良川流域（舞鶴・綾部・福知山）で実施されている「サケの飼育・放流活動」を広く市民に周知する活動。特に次代を担う子ども達に、放流した稚魚が再び川に戻る「不思議な自然のサイクル」と「命のリレー」を実感し、由良川を守り、きれいにする意識を高めてもらうため市内の小・中学校に参加を呼びかける。さらに、下水道を通さない生活排水や農業用水（肥料・農薬）などによる河川の汚染問題、河川流域のごみのマイクロプラスチック化による海洋汚染の問題、サケの遡上の減少から水産資源の持続可能性についても啓発・気づきの機会とする活動。

「未来創造 福知山」の施策

政策〔第4章4節〕自然環境の保全・共生の推進

施策3. 人と自然が共生する社会を推進する

- ①野生動植物の適正な保護・管理・育成など生物多様性の保全活動を推進します。



（サケの放流）



（サケの紙芝居、出張授業）

5 ひと(まち)・(くらし)のビジョン

①市民から見た福知山の現状

福知山のなかで大切にしたいもの

福知山の景観、商業のまち、鉄道で栄えたまち、都市計画事業により整備されたまち・インフラと古い町並みとの融合したまち、緑の多いまち、伝統の祭り・踊り・料理等、子どもたちにふるさとの思い出を残せる自然・歴史環境の豊かなまち、環境問題への意識・活動・教育を持続するまち、安全・安心を重視するまち、子育てがしやすいまち、周辺からの訪問客（観光・ショッピング等）を呼び込むまち、雇用が安定して住みやすいまち、活気・元気になるまちなど

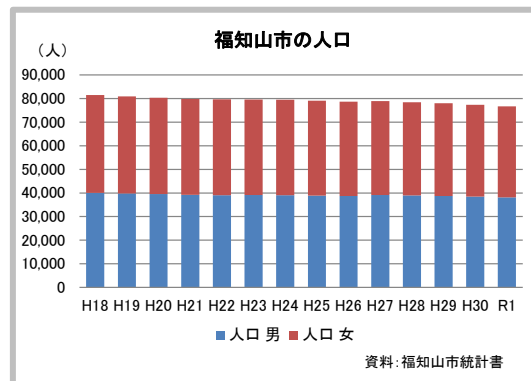
問題だと感じるところ

ごみ	・ものを大切にする意識が乏しい ・生ごみを減らす意識が乏しい ・リユース・リサイクルの意識が乏しい ・ごみのポイ捨て、河川敷の不法投棄ごみ
にぎわい・人	・環境に対しての関心が薄い ・環境にかかわるひとづくりができていない ・中心市街地の賑わいが少なくなっている ・名物を作る意識が薄い。市民で一致団結してまちをPRするというのがなかなかできない ・核家族化が進み、近所等とのつながりが弱くなった
まちなかの自然と文化	・まちなかで自然と親しむ機会が少ない ・雨を保水、浸透しない建物が多く、水害に弱いまちの構造 ・道路わきの整備ができていない ・まちなみ、景観に対する意識が薄い ・伝統的なお祭が続かない
農山村文化の伝承	・農村文化の伝承が出来ていない ・地産地消が出来ていない ・名物料理があまりない
エネルギー	・化石燃料に依存した社会が地球温暖化を招いている ・原子力エネルギーに過度に頼った社会 ・節電節水に対しての関心が薄い ・家電製品、電気使用に対する意識
その他	・まちなかに駐車場が少ない ・バスの本数が少なく不便で利用しづらい

②生活環境の現況

人口

全人口は平成 18 年の合併時以降、緩やかな減少傾向にあります。

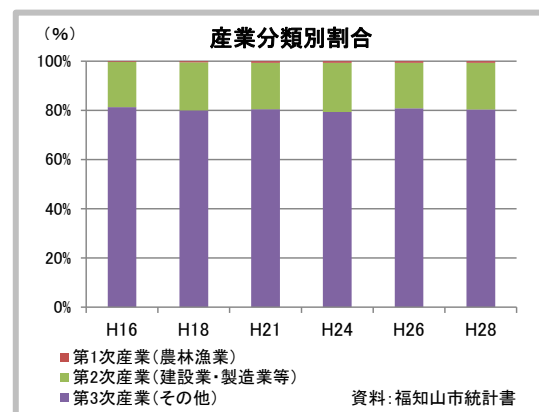
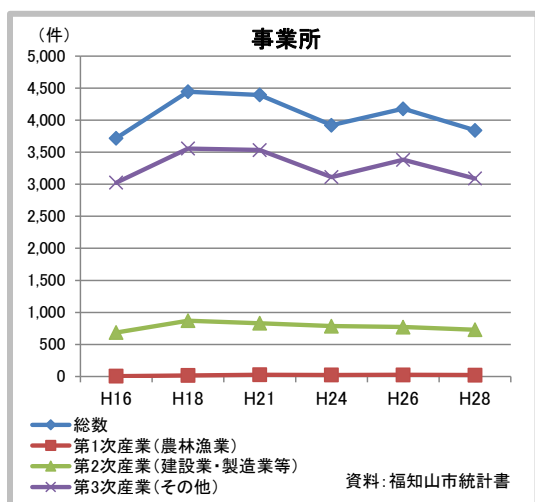


事業所

事業所数は、三町合併により一時増加しましたが、その後減少傾向にあります。

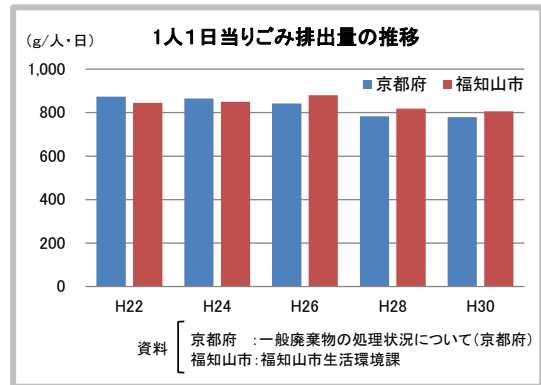
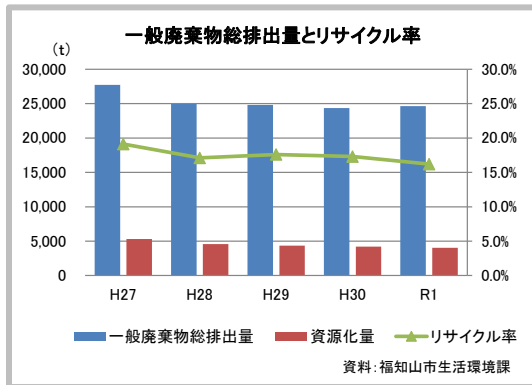
	H16	H18	H21	H24	H26	H28
総数	3,718	4,445	4,393	3,922	4,178	3,859
農林漁業	6	17	28	24	25	23
鉱業	3	6	6	9	5	6
建設業	403	526	514	475	461	443
製造業	280	339	311	301	305	275
電気・ガス・熱供給・水道業	3	8	7	2	7	6
情報通信業	34	24	32	28	33	34
運輸業、郵便業	52	71	83	81	80	79
運輸・通信業	—	—	—	—	—	—
卸売・小売業	1,166	1,265	1,213	1,042	1,075	997
金融・保険業	71	73	81	71	68	64
不動産業	180	174	206	203	199	193
学術研究、専門・サービス業	—	—	151	146	162	151
宿泊業、飲食サービス業	545	563	549	479	503	479
生活関連サービス業、娯楽業	—	—	361	358	359	339
教育、学習支援業	79	168	166	97	156	91
医療、福祉	176	262	265	223	299	284
複合サービス事業	14	47	42	43	41	41
サービス業(他に分類されないもの)	706	863	339	340	357	354
公務	—	39	39	—	43	—

資料: 福知山市統計書



ごみ

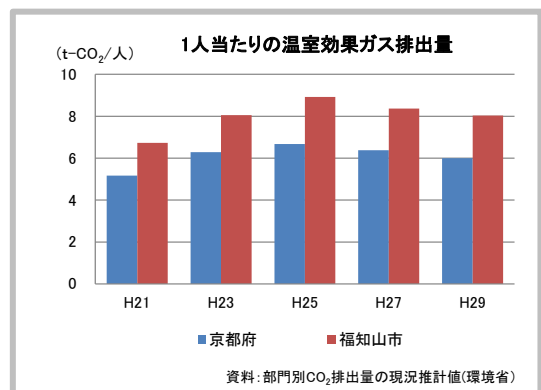
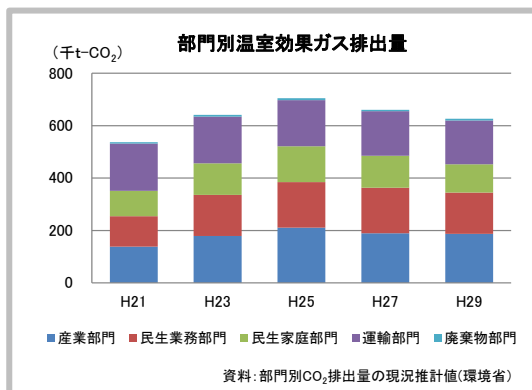
ごみの量と資源化量、リサイクル率について、いずれも減少傾向にあります。また、1人1日当たりごみ排出量は、平成28(2016)年度以降減少していますが、京都府より僅かに多い傾向にあります。



温室効果ガス排出量

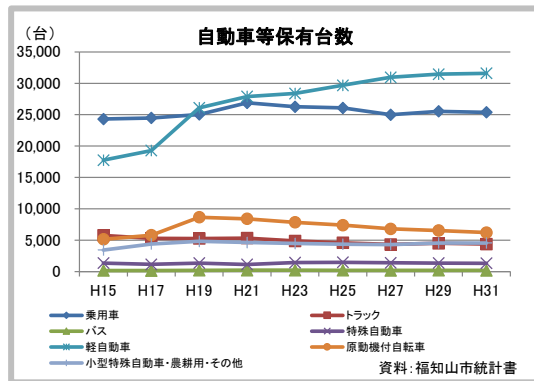
本市の温室効果ガス排出量は平成25(2013)年度をピークに減少傾向にあります。部門別にみると、産業部門が最も多く、次いで運輸部門が多くなっています。

1人当たりの温室効果ガス排出量も同様に平成25(2013)年度をピークに減少傾向にあります。その排出量は京都府より多くなっています。



交通関連

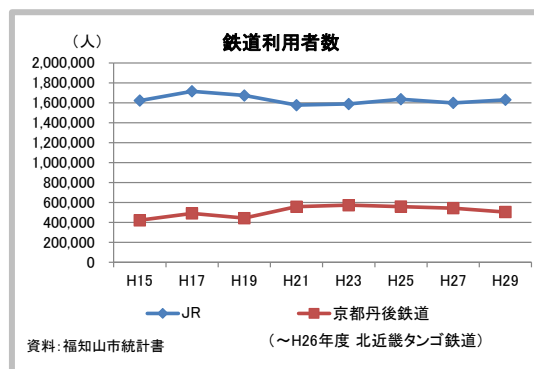
乗用車台数は横ばいですが、軽自動車台数は増加傾向にあります。鉄道利用者数はほぼ横ばいです。



H30 年度 自動車騒音面的評価結果

	一般国道 9 号線	府道 福知山停車場線
評価区間の始点	福知山市字堀	福知山市字天田
評価区間の終点	福知山市字新庄	福知山市字内記
測定結果		
昼間	67dB	64dB
夜間	63dB	58dB
環境基準達成率		
昼間及び夜間	96.5%	97.9%

資料：福知山市生活環境課



③市が実施している主な取り組み

- ・クールチョイス推進事業等による地球温暖化対策
- ・3 R（スリーアール）推進事業等によるごみ減量化推進
- ・環境保全一般事業による公害対策
- ・公園管理事業等による生活環境保全
- ・公共交通維持改善事業等による公共交通の利用促進 など

④ビジョンを実現するためのリーディングプロジェクト



気づき・考え・行動できる環境人づくり

環境セミナープロジェクト

関連する
SDGs



4.7



13.3



16.7



17.17

推進組織が『「地球環境の保全」「自然環境との共生」「循環社会の構築」（「SDGs を意識した暮らし」）についての考えが根付くことを目指し、会員・市民に向けて意識向上のための環境セミナーの開催と会報発行する企画・運営活動。推進組織がもつ環境のネットワークを駆使することで「SDGs を意識した暮らし」の学習の場をつくり、情報の共有と発信をする。

地球全体の問題である気候変動と海洋プラスチックゴミの現実に私たちの「暮らし」や「日々の行動」は大きく関係していることを市民とともに気づき・学習・行動の変革を目指す。

「未来創造 福知山」の施策

政策〔第4章4節〕自然環境の保全・共生の推進

施策1. 環境学習を推進する

- ①地球温暖化や自然保護に対する環境教育・啓発の機会を創出し、身近にある自然環境やふるさとの景観を守る意識を高めます。
- ②環境保全を推進する人材を育成します。



住んでみたいまち、住むことに誇りを持てるまち

“福知山市みどりの親善大使” ゴーヤ先生による広報プロジェクト

関連する
SDGs



ご当地キャラクターとして全国に知名度が向上した「ゴーヤ先生」を活動のシンボルとしてさらに活用し「環境のまち福知山」をPRする。

みどりのカーテンをはじめとした「福知山市環境基本計画」の啓発や、市内のご当地キャラクターとの立場の違いを超えた「市民協働」により、福知山の活性化を図る。

「未来創造 福知山」の施策

政策〔第4章4節〕自然環境の保全・共生の推進

施策1. 環境学習を推進する

- ①地球温暖化や自然保護に対する環境教育・啓発の機会を創出し、身近にある自然環境やふるさとの景観を守る意識を高めます。
- ②環境保全を推進する人材を育成します。

福知山グリーン生活情報マップ作成活動プロジェクト

—住みたいまち、福知山に—

関連する
SDGs



環境や暮らしを考え、無添加食品・無農薬野菜等を提供する店、量り売りをする店、環境を考えた暮らしを助ける商店、商店街を市民自身が見つけ出し、その情報を「福知山グリーン生活情報マップ」にまとめ、環境を考えた暮らしのための情報として活用する。それには、全国の専門性を持つNPOや市民団体でつくる「消費から持続可能な社会をつくる市民ネットワーク」に参加、作成した「ぐりちょ」を利用する。

情報マップ作成の過程で「エシカル消費」と「生産と廃棄」についての学びを得て環境意識を向上させる。持続可能なライフスタイル（SDGsを意識した暮らし）への気づきと変化を目的とする。また、ペットボトル購入、川ごみの抑制の適正な手段となる「マイボトルにコーヒー、お茶などの飲料を入れて販売する店舗や、水をマイボトルにいれることができる Refill ポイント」もマップ対象ポイントとする。

「未来創造 福知山」の施策

政策〔第4章4節〕自然環境の保全・共生の推進

施策1. 環境学習を推進する

- ①地球温暖化や自然保護に対する環境教育・啓発の機会を創出し、身近にある自然環境やふるさとの景観を守る意識を高めます。
- ②環境保全を推進する人材を育成します。

みどりのカーテン実施率日本一プロジェクト

関連する
SDGs



11.6



13.3



14.1

地球温暖化防止とヒートアイランド対策を目的に取り組みやすい「環境活動」の第一歩として市民に普及し、「暮らし方」を変える。また、「植物」を育て、命を大切に作る心を育む「環境教育」として子どもたちから大人へ広げる活動として普及するとともに、住民同士のコミュニケーションの活性化を図る。

ひと目で見て分かるPR効果を生かし日本一を実現し、ゴーヤやヘチマなどのつる性植物を使った地域の活性化による「みどりのカーテンのまち」福知山をPRする。

「未来創造 福知山」の施策

政策〔第4章4節〕自然環境の保全・共生の推進

施策1. 環境学習を推進する

- ①地球温暖化や自然保護に対する環境教育・啓発の機会を創出し、身近にある自然環境やふるさとの景観を守る意識を高めます。
- ②環境保全を推進する人材を育成します。



自然資源の有効利用による安心安全な暮らし

雨水の有効利用プロジェクト

関連する
SDGs



6.4



11.5

11.b



13.1

13.3

雨水貯留槽・雨水浸透枳の導入を促進し、豪雨時の雨水対策と水資源の循環利用を図る。「みどりのカーテン」プロジェクトや「生ごみ堆肥化による資源の有効利用」プロジェクト等と連携し、地域公民館や教育施設で実施する講習会等の際に、雨水貯留槽の水の活用を合わせて伝えることで、雨水（資源）の有効利用の重要性を学ぶことにつながる。

「未来創造 福知山」の施策

政策〔第4章4節〕自然環境の保全・共生の推進

施策1. 環境学習を推進する

- ①地球温暖化や自然保護に対する環境教育・啓発の機会を創出し、身近にある自然環境やふるさとの景観を守る意識を高めます。
- ②環境保全を推進する人材を育成します。

ごみの減量と生ごみの堆肥化による資源の有効利用プロジェクト

関連する
SDGs



日々の暮らしの中で廃棄されるごみの減量化方法やごみ処理の現状についての情報を市民に提供するとともに、生ごみを堆肥化（リサイクル）し、家庭菜園等で使用することにより、地産地消の輪を広げ、循環型社会の構築を図る。また、生ごみの減量化に併せ、生ごみを焼却処分するエネルギーを低減する。

「未来創造 福知山」の施策

政策〔第4章5節〕低炭素・循環型社会の形成

施策3. リサイクルとごみ処理対策を推進する

- ①産業、生活環境、教育、文化活動など、あらゆる分野において、市民・事業者・行政の協働により、3Rを推進します。
- ②適切なごみ処理や不法投棄の防止など、ごみ処理対策を推進します。



再生可能エネルギー推進運動プロジェクト

関連する
SDGs



脱炭素社会の実現に向け、エネルギーの地産地消の促進、環境・経済・社会の好循環を図るため、「クールチョイス」を推進し、再生可能エネルギーへの転換や省エネルギー行動の普及促進を図る。

「未来創造 福知山」の施策

政策〔第4章5節〕低炭素・循環型社会の形成

施策1. 環境を大切に生活・事業活動を推進する

- ① 新エネルギーの導入、省エネルギーなど環境を大切に生活スタイルを進め、協働による低炭素・循環型社会の構築をめざします。

6 その他大切にしたいプロジェクト

本計画を策定、見直しをするにあたって、リーディングプロジェクト以外にもたくさんの方のアイデアを出し合いました。以下は、リーディングプロジェクトには選ばれなかったが、本計画を推進していく上で大切だと思われるプロジェクトです。

①第2期計画策定時

【本計画を推進していく上で大切だと思われるプロジェクト一覧（1/2）】

	プロジェクト名	プロジェクトの目的・内容等
自然	自然マップやガイドの作成	福知山の自然を知ってもらうために自然マップやガイドの整備を行う。 ・福知山で作られている様々な自然マップやガイドの収集を行う。 ・目的別にマップ・ガイドを整理する。
	福知山市の自然の一押し	福知山の自然の良さを知ってもらうための洗い出しを行う。 ・福知山の自然の人気投票を行い福知山環境会議として認定する。
	福知山の河川を美しく	近畿でナンバーワンの河川を目指す。 ・昔の河川を取り戻すために全ての河川の汚れ具合を調査する。 ・汚れの発生源を調査して原因を探る。 ・関係機関及び市民に呼びかけクリーン活動を行う。
	福知山のきれいな水を守る	福知山のきれいな水（おいしい水）を後世に残す。 ・井戸水、湧水の水質等の調査を行う。 ・汚れ具合を把握し関係機関に連絡し地元と改善活動を進める。
	ホタル生息地の整備	ホタルが棲む自然の景観を後世に残す。 ・ホタル生息場所の調査を行う。 ・ホタル生息の現状を取りまとめ、関係機関に報告する。 ・毎年ホタル生息の調査を行い地元と共に河川等の整備活動を行う。
	雑木林の整備による山崩れの防止	異常気象に負けない山林を取り戻す。 ・農林振興局等に山林の現状を教えて貰う。（対策も含め） ・森林ボランティアを募り、危険場所の雑木林の整備を行う。 ・森林整備のため広葉樹を植える。
	田畑・農作業の支援	福知山の食文化を後世に残すため耕作地の整備を行う。 ・高齢化、後継者不足により農作業が低下した農地・農家を調査する。 ・耕作放棄地の現状を把握し、支援方法を探る。 ・農業が運営できるように支援を進める。
	有害鳥獣の被害対策	農地や集落を守るためバリアゾーンをつくり里山整備を行う。 ・有害鳥獣の被害の現状を探る。 ・動物の目線から被害対策を考える。 ・動物との共生を図り、被害対策を進める。
	ごみ不法投棄対策	美しい福知山にするためごみ不法投棄「0」の街にする。 ・関係機関にごみ不法投棄の現状を教えて貰う。 ・ごみ不法投棄の現場を確認し、現状を探る。 ・不法投棄をさせない対策を探り、対策を行う。

【本計画を推進していく上で大切だと思われるプロジェクト一覧（2/2）】

	プロジェクト名	プロジェクトの目的・内容等
ひと	公共交通の活性化プロジェクト	便利でなければタダでも乗らない。 乗りたくなるような公共交通のあり方について市民の目線と環境の視点から考えるプロジェクト。
	自転車活用プロジェクト	子どもから大人まで自転車の正しい扱い方と交通ルールについての教室の実施と自動車を使わず自転車を利用することによる環境負荷の低減と利用者へのインセンティブ制度などによる利用促進。
	昔の人に学ぼうプロジェクト	福知山の食や文化を残して行くことが大切であり、伝統食づくり体験講座等を開催し、文化を伝承していく。
	荒廃地・休耕田の利用プロジェクト	高齢化・過疎化により山間部の営農活動・管理が崩れかけている。企業参入による営農活動、土地利用の集団化を図り、雇用の創出と農地環境保全を目指す。
	ボランティア活動人材バンクプロジェクト	目的に応じ、ボランティア活動に参加するという方々を登録し、一つの活動を拡大させ、大きな効果を発揮させる。
	緑見守りたいプロジェクト	道路管理者と協定を結び、管理者と周辺住民とで歩道内やポケットパークの植栽等の管理を行う。官民一体となった維持管理体制を実行するとともに、みんなで緑や道路を綺麗にするという意識を高めるとともに維持経費を削減し、緑の管理を継続する。

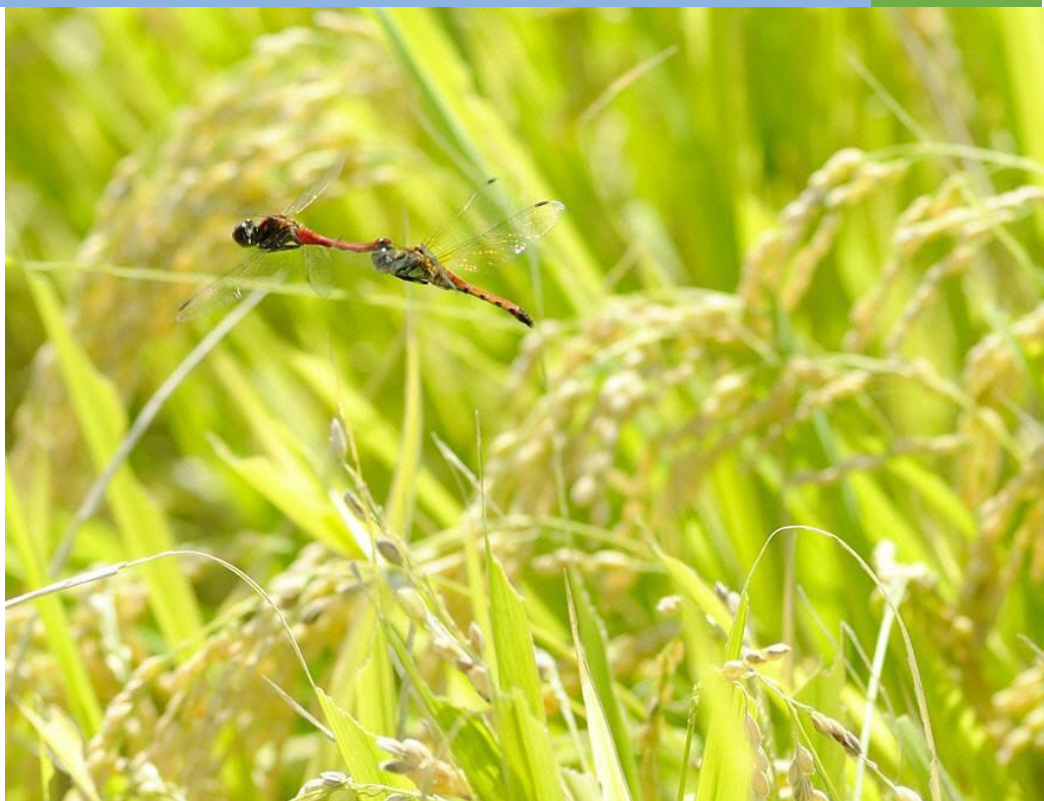
②中間整理時

【本計画を推進していく上で大切だと思われるプロジェクト一覧】

	プロジェクト名	プロジェクトの目的・内容等
自然	耕作放棄地対策プロジェクト	就農支援や耕作放棄地の有効活用などによる農地の保全
	海洋プラスチックごみ対策プロジェクト	啓発や資源の有効活用により、海洋プラごみ問題を防ぐための取り組みを実施
ひと	空き家・空き施設活用プロジェクト	空き家や使用頻度の少ない公共施設の有効活用による住みたいまちづくり
	福知山市内の家庭ごみ減量・資源化プロジェクト	資源化可能なプラごみや雑がみなどの資源化・分別の徹底による循環型社会の形成、海洋生態系の保全
	庁内のペーパーレス化プロジェクト	庁内における資料のペーパーレス化による紙使用量の削減
	再エネ授業・工作教室プロジェクト	教育機関と連携し、再生エネルギー等の活用など、これからの環境について学びの場を提供し、啓発を行う
	気候変動に対する適応策学習プロジェクト	気候変動の影響が顕著になる中で緩和策だけでなく適応策も必要になってきた。地域住民が関わった適応策の計画作成の考え方や手法を学び、今後の各地域での住民参加の適応策作成の準備を行う。

第2章 リーディングプロジェクト

～どのようにビジョンを達成していくのか～



自然

- ・生きもの調査プロジェクト
- ・由良川・里山プロジェクト
- ・サケの飼育と採捕・放流プロジェクト

ひと

- ・“福知山市みどりの親善大使”
ゴーヤ先生による広報活動プロジェクト
- ・みどりのカーテン実施率日本一プロジェクト
- ・環境セミナープロジェクト
- ・雨水の有効利用プロジェクト
- ・再生可能エネルギー推進運動プロジェクト
- ・福知山グリーン生活情報マップ作成活動プロジェクト
- ・一住みたいまち、福知山にー
- ・ごみの減量と生ごみの堆肥化による
資源の有効利用プロジェクト

自然 ～リーディングプロジェクト～

タイトル(プロジェクト名) 生きもの調査プロジェクト	ビジョン・プロジェクトシート NO. No.1-1
目的・効果 福知山の生きもの（動物、植物）を継続的に調べ、データを蓄積することで、生きものの増減など自然環境の変化を把握し、その調査結果を公開することで、環境学習や環境保全に活用してもらう。冊子「福知山の自然遺産」に掲載されている福知山の豊かな自然等を中心に体験し、次の事項を目的に活動する。 ○福知山の自然等を市民と共有し、関心をもってもらう。 ○福知山の自然や環境保護を次世代に伝えていく。 ○市民参加による調査や観察会、自然体験ツアーを通して、福知山の自然を知ってもらう効果 ○調査結果を資料として活用してもらうことで、環境学習の理解を助ける効果 ○調査結果を資料として活用してもらうことで、環境保全の活動を進める効果	
役割と連携 ○調査、観察会や自然体験ツアーの企画、実施、調査結果の公開を行う。 推進組織：自然科学協力員会、F A ヤマセミの会、福知山市（事務局、関係課） 参画組織：市民・・・調査、観察会、自然体験ツアーへの参画、協力 小・中学校・・・環境学習での生きもの調査の実施 事業者・・・環境への取り組みとして事業所内や地域での生きもの調査の実施	
何をするか〈内容・手法〉 ○自然観察会の開催 ・三段池ビオトープの生きもの調べと草刈りなどの手入れ（毎月） ・三段池ビオトープの生きもの観察会（年1回） ※三段池ビオトープ（水生生物観察池）は、「子どもたちが水生生物と触れ合えるように」と、2002年、動物園の北側につくられました。市内でほとんど見られなくなったメダカが泳ぎ、シオカラトンボやモリアオガエルなど様々な生きものが生息します。自然科学協力員会が整備と観察会を実施しており、継続して実施する予定です。 ○水生生物調査 ・学校や公民館での水生生物調査（年1～3回） ※川へ入り、タモ網で、魚や川底に生息するカゲロウやカワゲラなど水生昆虫を採集します。きれいな水にすむカワゲラやきたない水にすむミズカマキリなど、見つかった生きものにより川の汚れがの程度がわかり、楽しみながら水環境保全への関心を持ってもらえる調査です。 ○環境保全活動の支援 ・ササゴイ営巣地の環境保全活動支援（適宜） ・その他環境保全活動支援（適宜） ○年度当初に自然体験箇所を選定し、年間のコースを計画する。（自然体験箇所については、「福知山の自然遺産」などの文献等から選出する。） ○年に1～3回程度、多くの市民とともにウォーキングにより散策する。 ○コースによっては、専門家ガイドを付け、深く学べる充実した内容を考える。 ○10年をかけて、福知山の自然遺産を体験する。 ≪★自然体験コースの例★≫ ◎三段池公園散策コース（アカマツ林やビオトープ散策で福知山市の天然記念物や絶滅危惧種等を探す） 6月下旬から7月初旬の三段池公園において、子どもからお年寄りまで全ての年代の方が参加出来る自然体験散策コースを設定。アカマツ林は、松枯れが進む中、関西でも有数のアカマツ群落が見られる絶好の里山スポットとして注目されています。また長年整備を続けた三段池のビオトープにおいては、自然界の生きものが生き生きと生息する姿を観察する中で、福知山市の天然記念物第1号であるキマダラルリツバメ（蝶）を探す散策コースとして、専門家ガイドと一緒に体験するウォーキングによる楽しい自然体験散策コースです。※他に、大江山自然体験散策コース、宝山自然体験散策コース、大原自然体験散策コースなども予定していきます。	
目標(値) (いつごろまでに、どのような達成目標を設定するのか) ○第1段階（2015年）生きもの調査の継続。自然体験コース設定に向け、福知山の自然環境等を見て回る。 ○第2段階（2015年～随時）インターネットでの調査結果の公開。年間コースを設定・計画する。 ○第3段階（2015年～随時）広報により市民に活動を呼びかける。環境保全活動への支援を行う。 ○第4段階（～2022年）興味ある市民には、スタッフとして翌年度以降のコース設定に参加いただく。 ○最終段階（～2022年）福知山市の自然等をみんなで共有し、次世代に継承する。	
備考	

自然 ～リーディングプロジェクト～

タイトル(プロジェクト名) 由良川・里山プロジェクト	ビジョン・プロジェクトシート NO. No.1-2
目的・効果 福知山の自然を体験できる場所の構築と活動を通じて自然の大切さを市民に伝えるとともに、農山村の自然を活かした生活を学ぶことを目的とする。 ○市民や都市部に住む子どもと由良川や荒廃した里山を整備し自然の恩恵を肌で感じられる体験活動を行う。 ○自然環境を守るという生きた環境教育の場づくりとし、自然をうまく取り入れた農山村生活を体験することで循環型社会について学ぶ。 ○木育を通じて木と森のつながりや自然に対して関心を持ってもらう。	
役割と連携 ○学校や公共施設・団体等へ呼びかけ、クリーン活動を実施する。 ○学校や一般市民へ呼びかけ、由良川や竹林の整備をする。 ○福知山市関係機関や一般市民へ呼びかけ、里山の整備をする。 ○保育園や幼稚園等の関係施設への呼びかけ、木育の取り組みを実施する。	
何をするか〈内容・手法〉 (継続的な活動) ○クリーン活動の実施 ⇒ 由良川活動日(定期)及び年一回、イベント的なクリーン活動やごみ調査の実施 ○由良川フィールドの景観保全 ⇒ 草刈り、流木処理、遊歩道作りを行い、河川敷までのフィールドの景観を保つ。 ○由良川竹林の整備 ⇒ 竹林の間伐、枯竹の処理を行い、見晴らしの良い明るい竹林にして、竹を利用した工作やタケノコ堀りを楽しむ。 ○里山フィールドの景観保全 ⇒ 進入路やフィールドの草刈り、森林整備、キノコの育成等、農山村の里山フィールドの景観保全を進めながら、市民や都市部に住む子どもと共に自然を取り入れた農山村生活を体験し、循環型社会について楽しみながら学ぶ。 (イベント的な活動) ○由良川フィールドでのイベント ⇒ 草刈り、流木処理、遊歩道作りについて、市民へ参加を呼びかけながら行う。 ○里山フィールドでのイベント ⇒ 進入路やフィールドの草刈り、森林整備、キノコの育成等、市民へ参加を呼びかけながら行う。 ○木育活動 ⇒ 木とふれあい、木に学び、木と生きる取組活動を進める。	
目標(値)(いつごろまでに、どのような達成目標を設定するのか) ○第1段階(2015年)関係機関の洗い出しを行い幅広く市民参加者を募る。 ○第2段階(2017年)由良川・里山フィールドの全体的な構想図を構築する。 ○第3段階(2020年)由良川・里山フィールドの構想図を完成させる。 ○第4段階(2022年)循環型社会を活かした生活を定着させ、由良川フィールド等の年間の参加者を累計100名以上にする。	
備考 ・由良川・里山プロジェクトは前期からの活動は踏襲するが、活動内容の見直しを図り再度目標を立て推進する。 ・木育活動はアウトドアに留まらず、インドアでの教育も視野において推進する。	

自然 ～リーディングプロジェクト～

タイトル(プロジェクト名) サケの飼育と採捕・放流プロジェクト	ビジョン・プロジェクトシート NO. No.1-3
目的・効果 ○サケの飼育等をおして、由良川とふれあうことにより、由良川を守りきれいな川にする意識を高めることを目的とする。(⇒由良川の特性への気づきを促す。生物多様性・自然環境との共生への啓発と努力。地球環境の保全への啓発と努力) ○生物を卵から育て、孵化した稚魚が川に戻ってくる自然の不思議を実感する。 ○由良川の河川環境を守り、由良川へのサケの遡上が絶えることなく続くようにする。 ○水温の上昇等の気候変動による由良川へのサケの遡上に及ぼす影響に気がつく。	
役割と連携 推進組織 (サケのふるさと由良川を守る会) 行政 (京都府及び市担当課：農林業振興課)・牧川養殖漁業生産組合・京都府由良川漁業協同組合・N P O・自然保全団体等によりサケの卵の採捕・卵の配布・稚魚放流の会の主催 (実施・広報)、サケの生態と飼育について広報・募集を実施。 福知山環境会議 (市担当課：生活環境課) 教育機関へ広報とサケの飼育者募集 (サケの飼育の体験を教材とした環境教育) を出前講座 (教材を使ったサケの生態・自然環境・地球環境についての説明会) 開催。 市民・教育機関 (幼稚園・小・中学校など) 由良川のサケの卵の飼育・放流までを楽しみプロジェクトに参加。	
何をするか (内容・手法) 推進組織 (サケのふるさと由良川を守る会) ○サケの採捕・採卵と見学会を実施する。サケの生態やプロジェクトについて説明・広報をする。 ○サケの卵の飼育者募集・広報・卵の準備と配布説明会を実施する。放流の実施要項を案内・実施する。 福知山環境会議 ○教育機関 (市内小・中学校) へサケの卵の飼育者募集・広報・出前講座の案内をする。 市民・教育機関 ○サケの卵を孵化から稚魚まで、由良川に放流する。 ○サケの採卵見学会や放流事業に参加して、4年後に大きく育った成魚を採捕する。由良川のめぐみを確認する。 ○サケの飼育の出前講座を受講、由良川のサケ漁業・自然環境との共生の歴史と、地球環境について気づきと学びを得る。	
推進組織(サケのふるさと由良川を守る会)   福知山環境会議(事務局:市生活環境課)  市民・教育機関(幼稚園・学校など)	
目標(値) (いつごろまでに、どのような達成目標を設定するのか) ○第1段階 (2015 年) 活動内容を説明し、協力者の名簿を作成 ○第2段階 (2015 年～毎年) 1 月初旬 サケの卵の配布 ○第3段階 (2015 年～) 飼育の説明と稚魚育成状況の把握 ○第4段階 (2015 年～毎年) 稚魚放流日 (3 月中旬)、採捕 (11 月初旬) イベントの呼びかけ ○第5段階 (2017 年～毎年) 教育機関への広報とサケの飼育活動を使った環境教育への参加募集の呼びかけ 出前講座の講師として必要な学びを得ること	
備考	

ひと ～リーディングプロジェクト～

タイトル(プロジェクト名) “福知山市みどりの親善大使” ゴーヤ先生による広報活動プロジェクト	ビジョン・プロジェクトシート NO. No.2-1
--	-------------------------------------

目的・効果

- ご当地キャラクターとして全国に知名度が向上した「ゴーヤ先生」を活動のシンボルとしてさらに活用し「環境のまち福知山」をPRすることで、環境基本計画の認知度と活動へのモチベーションを向上させる。
- みどりのカーテンをはじめとした「福知山市環境基本計画」の取組PRはもちろん、市内事業者・団体・行政との連携で立場の違いを超えた「市民協働」により福知山の活性化・環境基本計画の周知と活性化を図る。

役割と連携

- 推進組織：広報活動のための企画立案・コーディネート・PJ広報のための情報提供
- 市民・事業者：クラウドファンディングやグッズ購入による活動費支援
- 市・事業者・各種団体：イベントや事業での連携、商品PRの連携などで町の活性化
- 市：気候変動対策や環境教育活動のシンボルとしてゴーヤ先生を活用

何をするか(内容・手法)

- 「福知山市みどりの親善大使」として全国のご当地キャラクターイベントに積極的に参加し環境のまち福知山をPR(福知山で開催するイベントに来ていただくご当地キャラとのつながりを年間を通じて強化)
- 年1回福知山市内でのご当地キャラクターイベントを実施(自主開催or協催)することによる市外からの来訪者の増加
- 市・学校・事業者・各種団体が実施するイベントを積極的にキャラクターがサポートすることにより町の活性化を図る。(ゴーヤ先生がそのイベントに出演することにより市内外からのファンの来訪を狙う)
- 行政や事業者、各種団体が実施する事業と連携することにより、業種や立場の違いを超えた市民協働を実現しその協力体制を基軸に環境基本計画に参画する市民を増加させる。
- ゴーヤ先生の知名度の確立は出来た。ここからは特に地元PRを中心に、新聞での連載やSNSなどを活用し、環境への取り組みを発信していく。



目標(値)(いつごろまでに、どのような達成目標を設定するのか)

- 第1段階(2015年) 環境イベント・講習会への参加者数年2,800人→達成
- 第2段階(～2018年) 環境イベント・講習会への参加者数年3,000人→達成
- 第3段階(～2022年) ゴーヤ先生によるPJ広報年間20件以上

備考

ひと ～リーディングプロジェクト～

タイトル(プロジェクト名)

みどりのカーテン実施率日本一プロジェクト

ビジョン・プロジェクトシート NO.

No.2-2

目的・効果

○地球温暖化防止とヒートアイランド対策

○取り組みやすい「環境活動」の第一歩として市民に普及し、「暮らし方」を変える。

○「植物」を育て、命を大切にする心を育む「環境教育」として子どもたちから大人へ広げる活動として普及

○地域のリーダーを育成・増加させ、地域内で普及させることによる住民相互コミュニケーションの活性化

○ひと目で見えて分かるPR効果を生かし日本一を実現

○ゴーヤやへちまなど、みどりのカーテンからの収穫をご当地産品(海洋プラ対策としてのへちまたわし)として活用したり、料理教室などを開催し、地域の活性化に役立てる。

役割と連携

推進組織：年度毎の戦略の策定と運営

市：取り組みへのリーダシップの発揮（公共施設での実施率 80%以上実施）と目標達成への協力

市民・市民団体・事業者：みどりのカーテンの実施

学校・保育園等：みどりのカーテンの実施と地球温暖化・ヒートアイランドについての環境教育の実施

何をするか〈内容・手法〉

○目標値：実施率を 2022 年度に「15%」（国勢調査：市街化区域に住む一般世帯数を基準とする）

○固定世帯の定着＋新規世帯の獲得（失敗しないみどりのカーテンの作り方普及）

○点（個人・事業主）と面（商店街・自治会・地域グループ）両方から取り組む

○みどりのカーテンサポート企業を増やす（市・府・国による表彰などインセンティブが必要）

○みどりのカーテンサポーターズチームの結成（実施率調査・地域や学校でのサポート・指導等）

○学校・クラス・商店街・団体単位で競い合うことによる活性化（福知山環境会議からの表彰）

○地域の高等学校（農業科）との育苗事業による連携

○若者世帯の実施率向上（教育機関と連携し植物に触れる機会を増やす）

【福知山市】目標：みどりのカーテン実施率 15%達成

明確なリーダシップ
優秀団体・自治会・学校
へのインセンティブ

市

各種団体

自治会

公共施設

事業所

市街地

学校

商店街

周辺部

幼稚園・保育園

福祉施設

集合住宅

推進組織(戦略策定・実施、普及啓発・苗配布・出前授業)

みどりのカーテン
サポート企業
苗提供

活動のサポート

ゴーヤ先生(活動のシンボルマーク)
積極的なPR活動による取り組みの知名度向上・市民のモチベーション向上

目標(値)(いつごろまでに、どのような達成目標を設定するのか)

○第1段階（2015 年）

実施率 10%達成

○第2段階（2017 年）

実施率 15%達成

○第3段階（2020 年）

実施率 18%達成

○第4段階（2021 年）

実施率 13%達成

○第5段階（2022 年）

実施率 15%達成

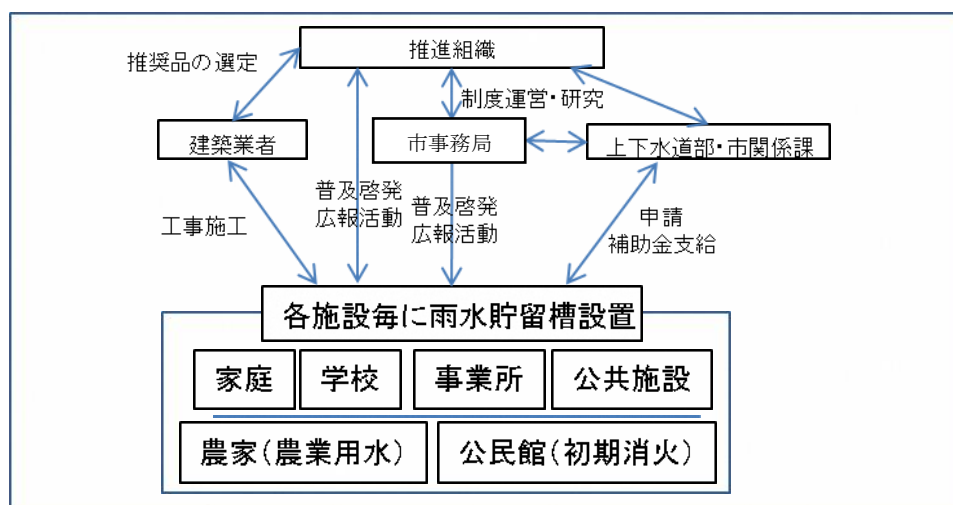
備考

ひと ～リーディングプロジェクト～

タイトル(プロジェクト名) 環境セミナープロジェクト	ビジョン・プロジェクトシート NO. No.2-3
目的・効果 ○子どもを含む市民に地球環境の大切さ、自然環境の保全や共生、循環型社会の構築などの考えが根付くことを目指し、意識向上を図る。 ○SDGsに関する講座をNPO団体、市民団体、消費者団体などから講師を招き開催し、市民と知識や情報を共有する機会を設ける。 ○福知山環境会議のプロジェクト活動に参加の機会を提供する。 ○福知山環境会議で収集した環境に配慮する暮らし（SDGsを意識した暮らしを考える）の知識や情報を市民と共有する。	
役割と連携 推進組織：年度毎の講座内容の計画策定（定期・個別）と開催案内と運営 市：推進組織との連携、講座の共催、専門職員の講師派遣 市民団体・事業者：専門知識のある講師の派遣 市民：セミナーへの参加、福知山環境会議プロジェクト活動への参加 学校・保育園等：学校への環境出前授業の活用	
何をするか（内容・手法） ○会報の作成・配布 対象：会員及び市民 配布方法：郵送（団体は、会へ一括郵送）（市民は、市役所、公民館、図書館、会協力店等に会報を配置し配布） 内容：（編集者：幹事会+事務局）プロジェクトの趣旨、各プロジェクトからの最新情報（市民の暮らしに関する環境情報中心）、各プロジェクトが得た環境に関する情報、環境セミナー・プロジェクト活動への案内と参加募集、関連団体・他市での環境活動などの情報 ○環境セミナーの開催 対象：会員・市民 内容：各リーディングプロジェクトの趣旨・内容から企画した講座（講師：プロジェクト担当者）（例：雨水勉強会） SDGsに関する講座（講師：NPO団体、市民団体、消費者団体）（例：2020年度総会 講演会） ○会員と市民のコミュニケーションの場所をつくる。 セミナーの参加者と質問一回答での対話 会場に関連団体のパンフレット、市関連助成事業要綱、環境会議募集パンフレット、関連情報誌、関連資料等の展示配布 ○出前講座の開催（講師：プロジェクト担当者） 紹介を受けた学校、施設、公民館等で講座を開催	
目標(値)(いつごろまでに、どのような達成目標を設定するのか) ○第1段階（2015年） 環境人育成セミナー年6回開催、環境共育モデル校指定事業とESDプログラムの提案、環境リーダー養成講座の開講 ○第2段階（2017年） 環境人育成セミナー年10回開催、環境共育モデル校指定事業とESDプログラムの運用開始、他の環境団体や事業者、講師との交流やネットワークの確立、環境学習リーダー養成講座の継続実施 ○第3段階（2020年） 環境人育成セミナー年12回開催、ESDプログラムがカリキュラムとして確立 ○第4段階（2021年） 会報の作成（年2～4回）、環境セミナーの開催（年2～4回） ○第5段階（2022年） 会報の作成（年2～4回）、環境セミナーの開催（年2～4回）	
備考	

ひと ～リーディングプロジェクト～

タイトル(プロジェクト名) 雨水の有効利用プロジェクト	ビジョン・プロジェクトシート NO. No.2-4
目的・効果 ○自然の恵みである雨水の有効利用を考えながら自然のありがたさを実感する。 ○集中豪雨による小河川の氾濫など内水対策の一環として、雨水貯留槽や雨水浸透枳を普及し安心して暮らせるまちをつくる。 ○「みどりのカーテン」プロジェクトの水やりと連携して雨水貯留槽を設置することで、環境教育（資源の有効活用）の教材として利用する。	
役割と連携 推進組織：情報提供・コーディネート・広報・普及啓発 市民、事業者：雨水貯留槽・雨水浸透枳の設置 市など公共団体：施設への雨水貯留槽設置、補助制度等による支援 学校：雨水貯留槽・雨水浸透枳の設置、環境教育	
何をするか〈内容・手法〉 ○学校、公共施設、事業所等に雨水貯留槽の設置を普及促進し、打水・散水などで有効利用 ○自治会を通じ家庭や公民館での利用拡大で溢水対策及び防火用水（初期消火）に活用 ○農家などの小規模な畑に雨水貯留容器を設置することで、野菜作りの水遣りに利用する。 ○既存の補助制度を市街化区域に限らず市内全域（市民・事業者）を対象とする。 ○「みどりのカーテン」と雨水貯留槽の設置を組み合わせることで、環境意識の相乗効果が生まれる。 ○市内に雨水浸透枳を普及させることにより、雨水の流出抑制を図る。 ○雨水貯留槽・雨水浸透枳設置地図の作成を検討する。	
目標(値) (いつごろまでに、どのような達成目標を設定するのか) ○第1段階（2015年） 雨水に関する勉強会・みどりのカーテンとの利活用普及PR ○第2段階（2018年） 学校・公共施設への雨水貯留槽設置 ○第3段階（2020年） 学校・公共施設への雨水貯留槽設置促進、公民館等への普及 ○第4段階（2021年） 学校・公共施設への雨水貯留槽設置促進、公民館等への普及 ○第5段階（2022年） 一般家庭への普及	
備考	



ひと ～リーディングプロジェクト～

タイトル(プロジェクト名) 再生可能エネルギー推進運動プロジェクト	ビジョン・プロジェクトシート NO. No.2-5
目的・効果 ○エネルギーの地産地消を推進し、環境・経済・社会の好循環を図る。 ○再生可能エネルギーを暮らしに活かし、化石燃料や原子力に依存しない社会の実現をめざす。 ○エネルギーの海外依存を減らし、安定した電力自給が可能な地域社会をめざす。 ○脱炭素社会づくりに貢献する選択・行動を呼びかける「クールチョイス」を推進し、地球も暮らしも我慢ではなく快適にする省エネルギー行動を考え、共有する。 ○適正な森林管理や資源循環の推進を図り、今まで廃棄していたものをエネルギーとして活用する。	
役割と連携 推進組織：出張講座・ワークショップ・パネル展示・モデル事業等 市民：再エネ省エネの実践、各種講座や事業等への参加 事業所、官公庁：再エネ省エネの実践、ZEH・ZEB普及推進、SDGsやエネルギーの地産地消に資する事業者とのパートナーシップ 学校：環境学習・夏休み省エネチャレンジ等への参加、再エネ省エネの研究及び実践 市：公共施設への再エネ導入と省エネ活用の推進、SDGsやエネルギーの地産地消に資する団体・事業者等への支援、ZEH・ZEB普及推進、資源循環（間伐材、BDF等）によるエネルギー活用の推進	
何をするか〈内容・手法〉 ○原発事故やブラックアウト等の経験を踏まえ、地域のエネルギー自給と再エネ省エネ活用を考える機会を提供する。 ○福知山市内のエネルギー消費の実態・推移を調査し、将来の再エネ省エネのあり方を考える。 ○福知山市再エネ活用プランや再エネ事業化検討会議の提言等を踏まえ、太陽光、小水力、木質バイオマス等の再エネ活用を推進する。 ○市民や事業者が出資等で再エネ発電事業に参加できる仕組みづくりを検討する。 ○地域産の電気利用や再エネ100に取り組むよう、100以上の事業者働きかける。	
目標(値)(いつごろまでに、どのような達成目標を設定するのか) ○第1段階 推進運動組織の立ち上げ 再生可能エネルギー実施計画の作成 ○第2段階 学習会の開催、再生可能エネルギーの事業化、廃食用油の拠点回収 ○第3段階 再エネ導入、省エネ活用の積極的推進及び普及	
備考	

ひと ～リーディングプロジェクト～

タイトル(プロジェクト名) 福知山グリーン生活情報マップ作成活動プロジェクト —住みたいまち、福知山に—	ビジョン・プロジェクトシート NO. No.2-6
目的・効果 ○環境や暮らしを考え、無添加食品、無農薬野菜等を提供している商店・スーパーマーケットなどや、若者・子育て世代・高齢者・障害のある人などの多様な市民の誰もが利用しやすい商店・スーパーマーケットを発見できる。(まちで、マップで、ネットで) ○情報をまとめ“福知山グリーン生活情報マップ”として作成された地図は、環境を考えた暮らしや町をはぐくむための情報として使うことができる。 ○環境や暮らしを大切にする商店・スーパーマーケットづくりを促していく。 ○市民が福知山で環境を考えた暮らしの良さや自分の暮らしにあった商店、スーパーマーケット情報を取得できる。商店、スーパーマーケットも、自らの良さを広くアピール(☆マークで表現)し、消費者のニーズに直接対応できる。 ○市民にグリーンコンシューマーの増加が見込まれる。 ○市民に SDGs に対応した情報共有の場が提供できる。 ○エシカル消費に対する理解が進む (SDGs の取り組みを暮らしの中に取り入れることを促していく)。	
役割と連携 推進組織—企画の主催・広報・結果の公表、市・商工会議所・商店・スーパーマーケット。医療・福祉事業所と共催 市民、学生—まちウォッチングへの参加 マップ作りへの参加 ☆マーク探索(マップ制作を“お楽しみ”にする) 商店、スーパーマーケット—共催、情報提供、まちウォッチング、マップ作りへの参加、☆マークで自店の良さをアピール 商工会議所—共催、情報提供、マップ作りへの参加、☆マークでのアピールを奨励 医療・福祉事業者—共催、情報提供、マップ作りへの参加 市【産業観光課・生活環境課・市民課・福祉保健部・その他】—企画、広報、情報提供、結果の公表、印刷製本、グリーンマーク効果を検討	
何をするか(内容・手法) 「消費から持続可能な社会をつくる市民ネットワーク」の活動参加で得た「ぐりちょ」「企業のエシカル通信簿」等の情報を市民と共有・利用することで、環境を語り合う場・人(仲間)で、福知山市内のマップ作成を考える。情報を会報で多くの市民に配布し、それぞれの生活スタイルに組み込まれるようにする。 ○第1段階 推進組織と市でプロジェクトチームを組織する。商工会議所・商店・スーパーマーケットに共催を呼びかける。地図作り調査の計画(地区割り・実施計画・調査内容など)をする。市民・学生に参加を募集する。☆マークの内容と基準の設定などを検討する。(☆マークはSDGsへの取り組みを基準とする。) チームメンバーと市民・消費者などが、一緒に商店街を歩き地区ごとに“環境を考えた暮らしを助ける店ウォッチング”(「まちウォッチング」)を実施する。(例：有機野菜・無農薬野菜・特別栽培の野菜・地場野菜を売る店、量り売りをする店、簡易包装をする店、容器持参を歓迎する店、オーガニック食品・衣料・石鹸などを売る店、要望によって配達可能な店などのウォッチング) ○第2段階 地区別に環境を考えた暮らしを助ける店ウォッチングの結果を「良いところ」・「課題」などにまとめ、マップをもとに商店・スーパーマーケットの人たちと懇談会を持つ。結果を情報マップとして作成する。 ○第3段階 マップのさらなる進化を目指し、地区別にマップ作りを進める。グリーンコンシューマー養成講座などの学習会を開く。	
目標(値)(いつごろまでに、どのような達成目標を設定するのか) ○2021年 活動グループを結成し、「ぐりちょ」を利用した「まちウォッチング」を実施する。グリーンコンシューマー、エシカル消費、消費者の選択と責任などのテーマで勉強会を企画する。(環境セミナーで) ○2022年 生活情報マップ作成を「ぐりちょ」の利用で進化させる。市民の要望を取り入れて勉強会の開催を企画する。 ○2022年以降 SDGsの取り組みを暮らしの中に取り入れることが促せる活動を継続させる。	
備考 情報を得たところから随時マップを作成、短期間ごとに、新しい情報に更新していく。 最初から完璧なものは目指さない。成長する生きたマップ作りを目指す。 福知山のいいところを更にのびし、課題を見つけ、模索、提案、実現していくことを楽しむ。(☆マーク探し) ☆マークとは、SDGsへの取り組みをマークで表現するもの。	

ひと ～リーディングプロジェクト～

タイトル(プロジェクト名) ごみの減量と生ごみの堆肥化による 資源の有効利用プロジェクト	ビジョン・プロジェクトシート NO. No.2-7
目的・効果 ・生ごみを焼却するエネルギーを低減し、貴重な堆肥として農作物の栽培等に利用し、安心安全な地産地消の循環社会の推進を図る。 ・みどりのカーテンで必要な堆肥を各家庭や地域で作ることにより資源の地産地消を促す。 ・生ごみの減量を図ることでグリーンコンシューマーとしての意識を高める。 ・ごみの焼却コスト削減・焼却時のCO₂排出量の削減。 ・日々の暮らしの中で廃棄されるごみの減量化方法やごみ処理の現状についての情報を市民に提供する。 ・生ごみを堆肥化(リサイクル)し、家庭菜園等で使用することにより、地産地消の輪を広げ、循環型社会の構築を図る。	
役割と連携 福知山環境会議：活動の企画・実施・啓発推進組織 市民・市民団体・事業者：各活動に参加 学校・保育園等：環境教育を推進 市：生ごみ減量に係る支援	
何をするか(内容・手法) ○第1段階(現状把握と課題解決に向けての目標の設定) 1. 「ごみ減量推進委員会(仮称)」の設置 2. 市民、企業、農家との意見交換会を開催し、何を求め何ができるのか現状や課題を把握する。 3. 生ごみの発生量や堆肥化(家庭用生ごみ処理機の利用実態)などの現状調査 4. 先進地域の取り組みの視察及び生ごみの回収・堆肥化システムの再検討と研究。 ○第2段階(目標達成のための市民啓発) 1. 月に1度環境パーク見学会を実施しごみの減量啓発に努める。 2. 「環境セミナー」を活用しながら、以下の活動を促進する。 ・三きり運動(食べきり、水きり、使いきり) ・エコエコクッキングや一般家庭でも実践できるごみの減量 ・市街地の一般家庭でもできる生ごみ堆肥化、木製堆肥箱の作り方、個別相談への対応 ・生ごみ堆肥を使用した農作物栽培の方法(学校や地域で実践できる学習農園の確保) 3. みどりのカーテンセミナーの際に生ごみ堆肥化の方法をパンフレットにして周知徹底 4. 現在の木箱を使った生ごみ堆肥化の「成功事例」をメディアを使ってPR 5. 電気生ごみ処理機の利用者に木箱の利用を勧める。 ○第3段階(目標達成に向けての徹底実施) 1. 学校給食センターから排出される残飯を堆肥化し、福知山産野菜の栽培用として農家に提供、生産拡大を図るとともに地産地消を推し進める。 2. 公民館単位で講習会を実施するとともに地域推進員をお願いし、参加を増やす。 3. 自治会などモデル地区を指定し、地域ぐるみでの生ごみ堆肥化を推進し、さらに拡大を図る。 4. 生ごみの回収・堆肥化システム(たい肥化モデル地区に協力要請)の検討と試験的实施 5. エコファーマー認定農家や農業法人との連携(モデル地区で出来上がった堆肥の活用) ○第4段階(達成度の振り返りとステップアップのための見直し) 1. ごみの減量達人コンテスト(仮称)を開催し、市民のモチベーションを向上させる。 2. プロジェクトの振り返り評価を行い実施内容の見直しを行う。 3. 誰でも気軽に取り組めるよう、木箱に限らず、園芸用プランター等を活用した生ごみ堆肥化を推進する。 4. 自治会等へごみの減量化推進に係る周知を行った上で、モデル地区の指定等、地域ぐるみでの生ごみ堆肥化を推進する。 5. 生ごみ堆肥化に係る一連の工程(堆肥作りから、堆肥の畑等への利用まで)を公募し、コンテストを開催する等、市民のモチベーションを向上させる。 6. 生ごみからできた堆肥は、みどりのカーテン実施率日本一プロジェクトのみどりのカーテン用つる性植物に与えることを推奨する等、他のプロジェクトと連携し進める。	
目標(値)(いつごろまでに、どのような達成目標を設定するのか) ○第1段階(2015年～) ○第2段階(2016年～) ○第3段階(2019年～) ○第4段階(随時)	
備考	

第3章 計画の進行管理と推進体制



1. 計画推進の考え方
2. 進行管理システム
3. 計画の推進体制

1 計画推進の考え方

本計画に示された様々な施策を確実に実行し、目指す将来像を実現していくためには、計画全体の進行度合いを適宜チェックしながら、それをふまえた適切な各リーディングプロジェクト（LP）・施策の実施やそれらの相互調整を行うなど、きちんと管理していく仕組みが必要になります。また、これらの計画を進めていくには、推進体制の整備が不可欠です。

福知山の環境を良くし、持続可能な地域社会を築くには、行政だけでなく、市民や事業者の主体的な取り組みの他、これらのパートナーシップによって相乗効果をもたらすような取り組みが重要です。

そのため、本計画や計画の具体的LPは、初期段階からパートナーシップ型で策定しています。

なお、実施検討段階においては、推進組織が、LPの優先順位・有効性等を再度確認することで、計画全体を見据えた判断をすることが必要です。

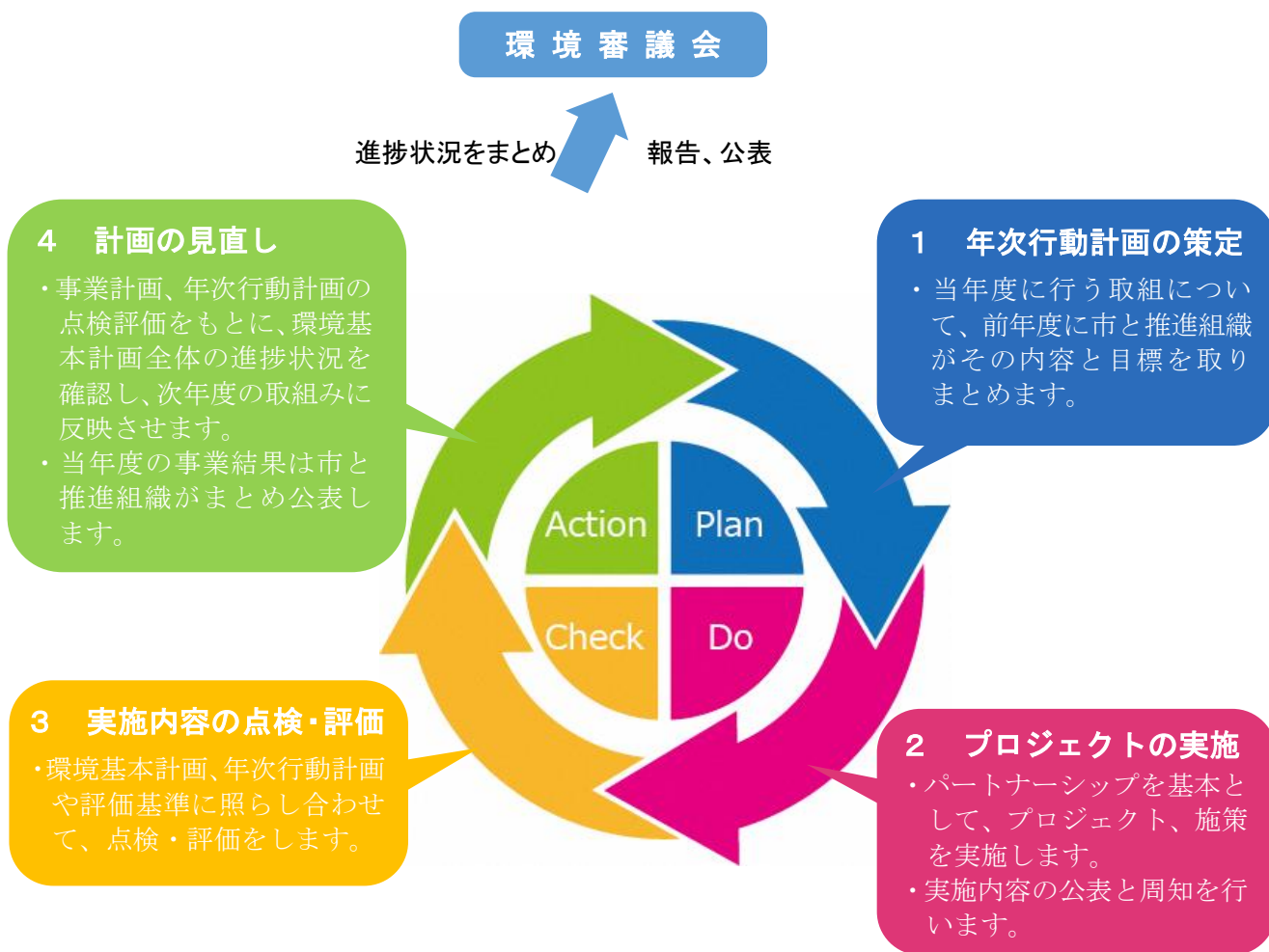
更に、自然環境や社会環境等の変化により、新たに有効なLPが立案・実行される場合は、推進組織での合意形成を図ることで、新LPへの移行を可能とします。

2 進行管理システム

計画の着実な推進のためには、「課題」「目標」「施策」に一連のつながりをもたせることが重要です。そのため、計画策定後も適切に進行管理を行う手法として、「PDCAサイクル」を用います。

PDCAサイクルとは、「Plan（計画）」、「Do（実施）」、「Check（点検・評価）」、「Action（見直し）」のことで、 $P \rightarrow D \rightarrow C \rightarrow A \rightarrow P \rightarrow D \rightarrow \dots$ と繰り返し、スパイラルアップをしていくことで、プロジェクトの進行状況における問題を解決し、改善しながらビジョンの実現を目指す、循環型の進行管理の考え方です。

＊この進行管理システムは、将来導入を目指す環境マネジメントシステムの活用を視野に入れて構築します。



【PDCA サイクルの図】

年次行動計画

市と推進組織が、環境基本計画に基づいて、市、市民、市民団体、事業者等が行う年度ごとの取組についてまとめ、公表します。

環境報告書等

市と推進組織は、環境基本計画の進捗状況について把握できるように必要な事項をまとめ、公表します。

環境マネジメントシステム

市の業務全般に渡って環境配慮を行うための管理システムで、環境方針を作成し、実施し、達成し、見直しかつ維持するための、組織の体制、計画活動、責任、慣行、手順、プロセス及び資源を含むもの。

環境審議会

環境の保全に関する基本的事項等を市長の諮問に応じ調査審議し市長に意見を具申する事務を行う市の附属機関です。

3 計画の推進体制

a パートナーシップによる推進組織

市民、事業者、行政が協働で環境基本計画を推進していくため、市民、事業者等が誰でも参加できる推進組織を設置します。この組織は、市とは対等の関係にある自立したものですが、市も参画するパートナーシップ型組織です。

またこの組織では、広く市民、市民団体、事業者等が環境基本計画のプロジェクトに参加できるような仕組みとして、リーディングプロジェクトごとの活動をします。

そのリーディングプロジェクトには、市の推進組織も参画し、パートナーシップでプロジェクトを進めます。

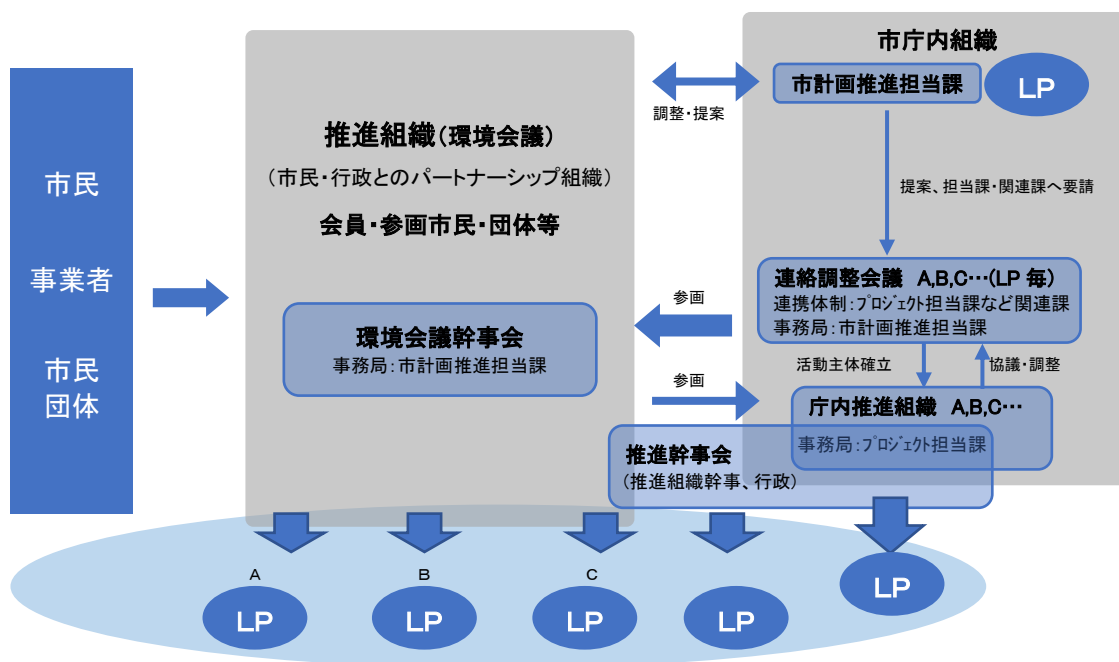
また、市とともに毎年の年次行動計画の作成、プロジェクトの実施、実施内容の点検・評価、計画の見直しを行い、計画の進行管理をパートナーシップのもとに実行していきます。

b 庁内推進体制

パートナーシップに基づきながら、市が主体的に責任を持って環境基本計画を推進していくため、庁内の推進体制を整えます。

この推進体制は、市計画推進担当課が推進組織と調整し、担当・関連部署を確認する中で連絡調整会議を設置し、市としての活動方針や活動範囲等を決定します。

決定された方針等に基づき確立された庁内推進組織（プロジェクト担当課）と環境会議幹事会で選ばれた者（各リーダー等）で構成する推進幹事会により、推進体制について協議・調整し、庁内推進組織は推進組織（環境会議）とともに事業を推進します。



資料編



策定の経緯

S D G s のゴールとターゲットの詳細

用語解説

策定の経緯

○講演会

令和2年8月23日

講師：杵本 育生 様（特定非営利活動法人 環境市民 代表理事）

テーマ：「私たちの生きるこれからの世界と地球はどうなるか～気候変動、パリ協定、SDGs、海洋プラごみ問題～」

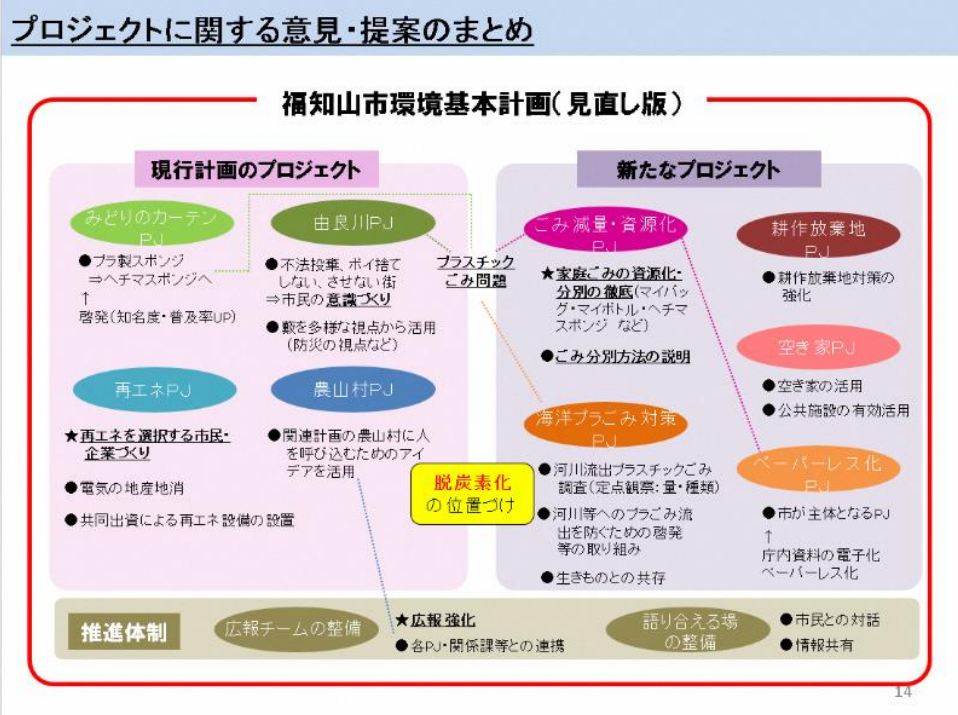
○第2期福知山市環境基本計画中間見直し検討会議

・第1回検討会議

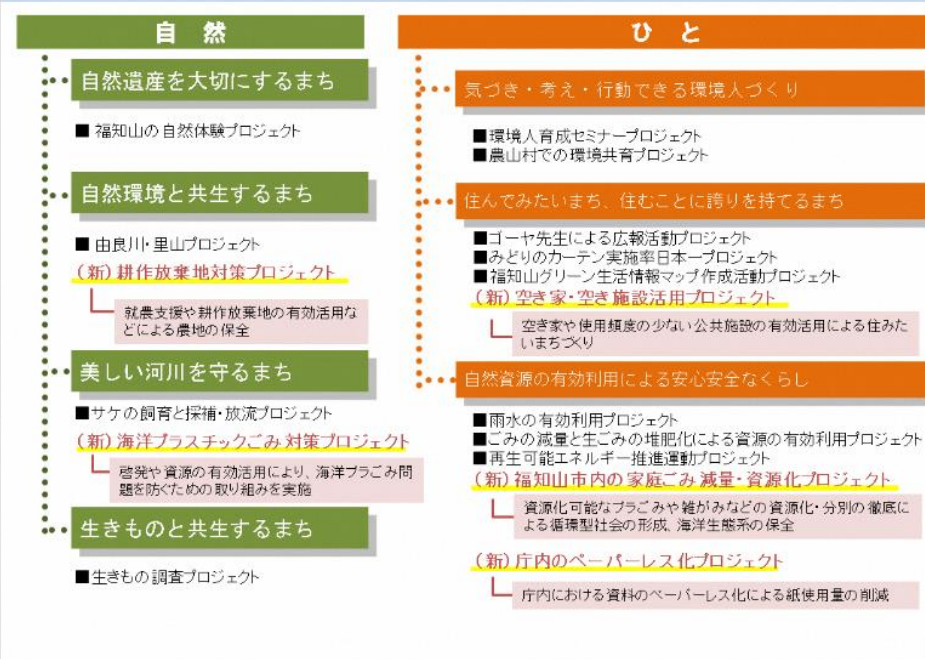
令和2年10月7日

コーディネーター：杵本 育生 様（環境市民）

内容：第2期福知山市環境基本計画についての再確認と、各リーディングプロジェクトの前期活動実績について、意見交換及び進捗状況の確認。また、新規プロジェクトの提案について。



新プロジェクトまとめ



・第2回検討会議

令和2年12月9日

コーディネーター：杵本 育生 様（環境市民）

内容：各リーディングプロジェクトの今後について、会員の意見と方向性の確認。

第2回検討会議 まとめ

■プロジェクトの見直し、方針について

	【プロジェクト名】	方針	内容
自然	[No. 1-1] 福知山の自然体験 生きもの調査Pと合併	見直し	生きもの調査Pと合併する。 名前は生きもの調査Pとする。 対象を大人も子どもも全市民への啓発として取り組む。
	[No. 1-2] 由良川・里山 農山村での環境共育Pと合併	見直し	農山村での環境共育Pと合併。 海洋（由良川）プラごみ対策まではいないが、河川のごみ調査などは実施している。 農山村での環境共育Pとの合併は可能であるが、活動内容の検討を行う必要がある。
	[No. 1-3] サケの飼育と採捕・放流	見直し	サケの視点から由良川の生態系を知り、福知山の環境への関心アップを。 現状：しっかり伝えられるリーダーが不足している。趣旨や目標の書き直しと目的、誰が、何をやるのか（市内での）役割の整理が必要。
	[No. 1-4] 生きもの調査 福知山の自然体験Pと合併	見直し	福知山の自然体験Pと合併する。 自然体験Pの活動内容を盛り込む。
ひと	[No. 2-1] ゴーヤ先生による広聴活動	見直し	内容のブラッシュアップ。市内や福知山市民に向けての活動を強化する。 目的は変えないが、手法の見直しを行う。再生可能エネルギー推進運動Pなどと連携を図っていく。 意味あるキャラクターとして「ゴーヤ先生」の活用方法を模索していく。
	[No. 2-2] みどりのカーテン実施率日本一	見直し	実施率の目標値は見直ししながら、実施率の見える化は続けていく。 公共施設や駅周辺での取り組みの強化、ヘチマの配布も海洋プラ対策の一環として実施していく。日本一という名称を活用してアピールする。 実施率の調査は自転車（地域住民等）で実施するなど、調査の方法も要検討。 温暖化防止にどのように貢献したかも大事ではないか。 （実施している世帯にエアコンの使用率などのアンケートなど）

第2回検討会議 まとめ

■プロジェクトの見直し、方針について

	【プロジェクト名】	方針	内容
ひと	[No. 2-3] 環境育成セミナー	見直し	学習と情報共有（福知山環境会議メンバー）の機会の創出。 PJの目的として、環境を大切に考えた行動をする人を増やす。セミナーを受けたら自分のためになる、生活につながるようなセミナーも考えてはどうか。 環境会議で取り組んでいる内容のセミナーも実施し、活動に興味を持つ人を増やす。
	[No. 2-4] 雨水の有効利用	見直し	市内の担当部署との調整により、環境会議が取り組む事を明確にする。 市では雨水貯留槽の補助金があるため、環境会議がどう関わるかの整理が必要。
	[No. 2-5] 再生可能エネルギー推進運動	見直し	再生可能エネルギーの導入をメインに活動を考えていく。 「太陽光発電の導入する」などではなく、再生可能エネルギーを活用することでどのような効果があるかを市民に伝える活動を行う。 手法や目標値の見直しを行う。
	[No. 2-6] 福知山グリーン生活情報マップ作成活動	見直し	環境育成セミナーPJを活用して、買い物で何を減らすかを市民に伝える。 「消費から持続可能な社会をつくる市民ネットワーク」との連携により、引き続き情報を得る。それを市民に伝えられるような取り組みを実施していく。 目標「べりちょ」を活用しつつ、福知山での普段の買い物にエシカル等の考えを落とし込む。
	[No. 2-7] 農山村での環境共育 由良川・里山Pと合併	見直し	由良川・里山Pと合併する。 活動の手法等、どのような内容で取り組むのかは関係機関等と協議し検討していく。
	[No. 2-8] ごみの減量と生ごみの堆肥化による資源有効利用	現状のまま	ごみ全体の排出量を減らすためにも、市全体の取り組みにしていこう。 進め方、やり方については再考の必要がある。みどりのカーテンPJなどとも一緒に取り組みを広げていきたい。

・第3回検討会議

令和3年2月10日

コーディネーター：杵本 育生 様（環境市民）

内容：提案された新規プロジェクトの今後の方向性確認及び、環境基本計画（案）全体の内容についての意見交換

第3回検討会議まとめ

■新プロジェクトについて

	【プロジェクト名】	今後の方向性	内容
自然	(仮称)耕作放棄地対策	不要	次期計画に向け検討していく。 耕作放棄地問題が直接、環境基本計画に入っていくのは私たちのレベルでは早いと感じる。耕作地は農地の問題、所有者の問題がある。環境会議内に専門家がいないため、私たちが出来るものではない。計画以前の課題で、取り扱いが難しいと感じるため不要。 農業の担当課に関わる話でもあり、かなり専門的な議論が必要である。
	(仮称)海洋プラスチックごみ対策	既存PJで実施	由良川・里山PJ、みどりのカーテン実施率日本一PJ、サケの飼育と採捕・放流PJで取り組む。 サケの活動と一緒に考え行動できるよう書き込む。（教育機関等への案内や出前講座の中でも海洋プラごみについての説明を入れていく計画にしている） 身近な生活の中での具体的対応として「みどりのカーテン」のヘチマ・食器洗いヘチマで（プラスチックボトルの削減） 由良川・里山PJで実施調査の実施（海へつながる由良川のごみ調査をすでに実施済み） 海、川、サケ：人のくらしとのつながり、自然循環を知る
ひと	(仮称)空き家・空き施設活用	不要	次期計画に向け検討していく。 今後、市内で関連する部署（農林業振興課など）との体制を作り、次期計画策定時に向き準備を行いたい。 市の地球温暖化対策実行計画でも、空き家空き施設の管理、森林の適正管理などをいれこむ予定である。この内容は市民と一緒に進めていく方法を考える必要がある。
	(仮称)福知山市内の家庭ごみ減量・資源化	既存PJで実施	ごみの減量と生ごみの堆肥化による資源有効活用PJで取り組む。 家庭ごみが増加。どう資源化するかが重要。→生ごみ堆肥化のPと合わせて考えていく。 市ではごみ処理基本計画の中にごみの減量化及び生ごみ減量についての記載を入れ込む予定である。消費者、市民のライフスタイルの問題でもあり、グリーン生活情報マップで伝えていく。次期に向うては、消費者の取り組みも考えていく（消費生活を考える） 市民への情報発信：ごみ処理費用、資源化は得た金額など「数字」を分かりやすく。ただし一番重要なのはごみを出さないこと。ゴミ減らし・・・分かりやすく発信。
	(仮称)市内のペーパーレス化	不要	市内組織で取り組んでおり、強化していく。 福知山市エコオフィス推進本部の取り組み→ペーパー減に取り組んでいる。 →温暖化防止実行計画の見直しによる事務事業編でも取り組んでいく。 KES（環境マネジメントシステム）ステップ1認証を取っている。 各課ごとにエコオフィス推進員を配置→今後さらなる推進でペーパーレスも視野に入れる。
	(仮称)再生可能エネルギー・工作教室	既存PJで実施	再生可能エネルギー推進運動PJで取り組む。 再生可能エネルギー推進運動PJが既存PJとしてあるので、そちらで取り組むべき。今年度は、小学校でみどりのカーテンの講習会と一緒に再生可能エネルギーに関する出張講座を実施、引き続き実施していく。 数字の目標も大切。一年間に何回実施するのかという目標も今後立ててみてはどうか。

SDGsのゴールとターゲットの詳細

SDGsのゴールとターゲットの詳細 (1/2)

ゴール		ターゲット
	あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する	3.9 2030 年までに、有害化学物質、並びに大気、水質及び土壌の汚染による死亡及び疾病の件数を大幅に減少させる。
	すべての人々への、包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する	4.7 2030 年までに、持続可能な開発のための教育及び持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等、平和及び非暴力的文化の推進、グローバル・シチズンシップ、文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。
	ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う	
	すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する	6.4 2030 年までに、全セクターにおいて水の利用効率を大幅に改善し、淡水の持続可能な採取及び供給を確保し水不足に対処するとともに、水不足に悩む人々の数を大幅に減少させる。
		6.6 2020 年までに、山地、森林、湿地、河川、帯水層、湖沼などの水に関連する生態系の保護・回復を行う。
	すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する	7.1 2030 年までに、安価かつ信頼できる現代的エネルギーサービスへの普遍的アクセスを確保する。
		7.2 2030 年までに、世界のエネルギーミックスにおける再生可能エネルギーの割合を大幅に拡大させる。
		7.3 2030 年までに、世界全体のエネルギー効率の改善率を倍増させる。
		7.a 2030 年までに、再生可能エネルギー、エネルギー効率及び先進的かつ環境負荷の低い化石燃料技術などのクリーンエネルギーの研究及び技術へのアクセスを促進するための国際協力を強化し、エネルギー関連インフラとクリーンエネルギー技術への投資を促進する。
	包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する	8.4 2030 年までに、世界の消費と生産における資源効率を漸進的に改善させ、先進国主導の下、持続可能な消費と生産に関する10年計画枠組にに従い、経済成長と環境悪化の分断を図る。
	各国内及び各国間の不平等を是正する	
	包摂的で安全かつ強靱で持続可能な都市及び人間居住を実現する	11.3 2030 年までに、包摂的かつ持続可能な都市化を促進し、すべての国々の参加型、包摂的かつ持続可能な人間居住計画・管理の能力を強化する。
		11.5 2030 年までに、貧困層及び脆弱な立場にある人々の保護に焦点をあてながら、水関連災害などの災害による死者や被災者数を大幅に削減し、世界の国内総生産比で直接的経済損失を大幅に減らす。
		11.6 2030 年までに、大気質及び一般並びにその他の廃棄物の管理に特別な注意を払うことによるものを含め、都市の一人当たりの環境上の悪影響を軽減する。
		11.b 2020 年までに、包含、資源効率、気候変動の緩和と適応、災害に対する強靱さ(レジリエンス)を目指す総合的政策及び計画を導入・実施した都市及び人間居住地の件数を大幅に増加させ、仙台防災枠組2015-2030に沿って、あらゆるレベルでの総合的な災害リスク管理の策定と実施を行う。

SDGsのゴールとターゲットの詳細 (2/2)

ゴール		ターゲット
 12 つくばる資源の つかう量を減らす	持続可能な生産消費形態を確保する	12.2 2030 年までに天然資源の持続可能な管理及び効率的な利用を達成する。
		12.5 2030 年までに、廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。
		12.8 2030 年までに、人々があらゆる場所において、持続可能な開発及び自然と調和したライフスタイルに関する情報と意識を持つようにする。
 気候変動に 具体的な対策を	気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる	13.1 すべての国々において、気候関連災害や自然災害に対する強靱性(レジリエンス)及び適応力を強化する。
		13.3 気候変動の緩和、適応、影響軽減及び早期警戒に関する教育、啓発、人的能力及び制度機能を改善する。
 14 海の豊かさ を増やす	持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する	14.1 2025 年までに、海洋堆積物や富栄養化を含む、特に陸上活動による汚染など、あらゆる種類の海洋汚染を防止し、大幅に削減する。
 15 陸の豊かさを 守る	陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する	15.1 2020 年までに、国際協定の下での義務に則って、森林、湿地、山地及び乾燥地をはじめとする陸域生態系と内陸淡水生態系及びそれらのサービスの保全、回復及び持続可能な利用を確保する。
		15.2 2020 年までに、あらゆる種類の森林の持続可能な経営の実施を促進し、森林減少を阻止し、劣化した森林を回復し、世界全体で新規植林及び再植林を大幅に増加させる。
		15.4 2030 年までに持続可能な開発に不可欠な便益をもたらす山地生態系の能力を強化するため、生物多様性を含む山地生態系の保全を確実に行う。
		15.5 自然生息地の劣化を抑制し、生物多様性の損失を阻止し、2020 年までに絶滅危惧種を保護し、また絶滅防止するための緊急かつ意味のある対策を講じる。
 16 平和と公正を すべての人に	持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する	16.7 あらゆるレベルにおいて、対応的、包摂的、参加型及び代表的な意思決定を確保する。
 17 パートナリシップ で目標を達成しよう	持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する	17.17 さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。

用語解説

【ア行】

ESD(Education for Sustainable Development)

持続可能な開発のための教育。
社会の課題と身近な暮らしを結びつけ、新たな価値観や行動を生み出すことにより、持続可能な社会を創造していくことをめざす学習や活動。
持続可能な未来を築く「人」を育む活動全般。

一般廃棄物処理基本計画

「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」第6条において「市町村は、当該区域全域について、地方自治法第2条第4項の基本構想に即して、一般廃棄物処理計画を定めなければならない。」と規定されており、各市町村における一般廃棄物処理の方向性を示すもの。

インセンティブ

意欲向上や目標達成のための刺激策。

雨水浸透枳

住宅地などに降った雨水を地面へと浸透させることのできる設備。
地表の水を地下に浸透させることにより、水害の軽減・地球温暖化の防止などといった働きを果たすことが、雨水を資源として有効活用することの目的としている場合もある。

エコエコクッキング

旬の食材を旬の季節に無駄なく利用し、また効率的なエネルギーの利用や水を汚さない工夫をするなど、環境に配慮した料理法。

エコスクール

1994年に始まった学校の環境学習プログラム。テーマの選定から調査・計画・実行まで、子どもたちが中心となって、先生や保護者も参加する取り組み。

エコファーマー

「持続性の高い農業生産方式の導入の促進に関する法律(持続農業法)」に基づき、環境にやさしい農業に取り組む計画をたて、その計画が知事の認定を受けた農業者(個人または法人)の愛称。

SDGs(持続可能な開発目標)

平成27(2015)年9月に国連サミットで採択された、持続可能な世界を実現するための17の目標と169のターゲットで構成される国際社会共通の目標。

NPO(Non-profit Organization: 非営利組織)

営利を目的とする株式会社などと異なり、社会的使命の追及を目的とし、自発的に継続して活動を行う組織。一般的には、法による特定非営利活動法人格を取得した団体に限定せず、より広く、社会的使命の達成を目的とする任意団体も含まれる。

オーガニック(有機)

農薬や化学肥料に頼らず、太陽・水・土地・生物など自然の恵みを生かした農林水産業や加工方法をさす。
国際的な規模で有機農業推進活動を行っている国際有機農業運動連盟は、オーガニックの原則として「生態系」「健康」「公正」「配慮」の4項目を掲げている。

オゾン層破壊

成層圏の中で、地上約25から30kmの辺りに3mmほどの層を成しているオゾン(O₃)層が、人間が作って放出した、フロン、ハロン、トリクロロエタン等の化学物質の働きによって分解される現象。オゾン層が破壊されることで、有害な紫外線が地表に届き、皮膚ガンや白内障などの原因、遺伝子への影響による生態系の破壊につながる。

温室効果ガス

地球温暖化の原因とされ、太陽の日射を受けて暖められた地表面が放つ赤外線を吸収し、その一部を再放射することで気温上昇を起こす原因となる気体。地球温暖化対策の国際的な目標や手法を定めた京都議定書では二酸化炭素(CO₂)、メタン(CH₄)、一酸化二窒素(N₂O)、ハイドロフルオロカーボン(HFC)、パーフルオロカーボン(PFC)、六フッ化硫黄(SF₆)の6物質が削減目標の対象となっている。⇒参照「地球温暖化」

【力行】

環境基準

人の健康の保護や生活環境の保全のうえで維持されることが望ましいとされる、環境中の物質の濃度や音の大きさの基準。環境基本法により、大気、水、土壌、騒音、ダイオキシンについて定められている。

環境基本法

日本の環境政策の根幹を定める基本法であり、環境基準の設定や環境基本計画の策定など具体的な施策に関する規定が含まれる。具体的施策は規定の趣旨に基づく個別の法制上および財政上の措置により実施される。

環境共育

共育は教える側と教わる側を固定して考えず、共に学びながらいこうという意味。環境問題をみんなで考え最善の解決策を講じていこうという概念をこめて環境に関わっていくこと。

環境ホルモン

生物の体内に取り込まれると、まるでホルモンのように働いて生殖機能などをかく乱するおそれのある物質のことで、正式には内分泌かく乱化学物質という。ある種の化学物質が生物のホルモン機能に作用して、生態系や人間の身体に影響を与えるといわれている。しかし、環境ホルモンについては、その実態が不明な部分が多く、現在多くの調査研究が進行中。

環境を守り育てる条例(京都府)

人と自然が共生することのできる歴史と文化の香り高い健全で恵み豊かな環境を保全し、進んで安らぎと潤いのある快適で住みよい環境を創造していくことにより、現在及び将来の府民の健康で文化的な生活の確保に寄与するため、京都府が制定した条例。

キマダラルリツバメ

全国的に絶滅が懸念されている小型のシジミチョウ科チョウ類。昭和40(1965)年に福知山市指定天然記念物第1号として指定された。

グリーンコンシューマー

環境を大切にして商品やサービスを選択する消費者。あらゆる買い物について少しでも環境への影響を少ないものを選ぶことで、エコロジックな生活を実現していくとともに、「商品の選択」という消費者の力でメーカーや流通業などの環境への取り組みを促し、社会全体

のエコロジー化をすすめることを目的としている。日本では平成3(1991)年に京都で「買い物ガイド」を作成する活動からスタートし、各地で民間団体や自治体による活動が増加している。

グリーン生活情報マップ

環境にやさしい暮らしを手助けするための情報(公共交通・タクシー・病院・地場産の産物売る店・量り売り店・憩いの場所・高齢者、障がい者に配慮したお店など)を地図上に表記したもの。

COOL CHOICE(クールチョイス)

令和12(2030)年度に温室効果ガスの排出量を平成25(2013)年度比で26%削減するという国の目標達成のために、省エネ・高効率製品への買換えやライフスタイルの選択など、地球温暖化対策を進めるための「賢い選択」をしていく取組。福知山市においては、平成31(2019)4月に「福知山市クールチョイス宣言」を行っている。

コーディネーター

ものごとを調整する役の人。

ゴーヤ先生

福知山環境会議のマスコットキャラクター。福知山市みどりの親善大使としてみどりのカーテンでエアコンをなるべく使わない地球にやさしい生活をPRする活動を行っている。

【サ行】

再生可能エネルギー

自然現象から取り出すことができ、一度利用しても再生可能な枯渇しないエネルギー源のこと。水力、バイオマス、太陽光、太陽熱、風力、地熱、波力などがある。

再生可能エネルギー活用プラン(福知山市)

福知山市において、持続可能なクリーンエネルギーとして注目されている「再生可能エネルギー」の導入を図ることを目的として策定されたプラン。

里山

薪炭を得るためや、山菜、きのこ等の食材を採取するために、人間が持続的に利用してきた人里周辺の山。原生的な自然林とは異なるが、本州においては広葉樹を中心とした多様な動植物が生息する豊かな自然空間を形作っていた。ただ、1950年代後半以降石油エネルギー

ギーへの急速な移行とライフスタイルの転換がおこり、人間の利用が滞り、かえって荒れた自然になってしまっているところが多い。近年、その価値が見直され里山の再生活動が各地で行われるようになってきている。

シックハウス・シックスクール・アトピー

住宅の気密化や化学物質を放散する建材・内装材の使用等により、新築・改築後に住宅や学校などの建物において、化学物質等による室内空気汚染により、居住者にさまざまな体調不良が生じる現象のことをシックハウス・シックスクール症候群という。また、アトピー疾患（炎症と掻痒をその病態とする湿疹・皮膚炎群の一疾患）の症状を有する子どもたちが、そのような症状を訴えることが多い。

自然遺産

顕著な普遍的価値を擁する地形や地質、生態系、景観、絶滅のおそれのある動植物の生息・生息地などを含む地域。

自然エネルギー

太陽光、水力、風力、地熱、海洋温度差など自然活動から取り出すエネルギーのこと。

持続可能

1987年、国連の「環境と開発に関する世界委員会」報告書の中で提唱された「持続可能な発展（sustainable development）」という概念に基づく言葉。将来世代の必要（ニーズ）を損なわないように現代世代の必要（ニーズ）を満たすことと考えられている。環境と経済と社会の発展を調和させて人々が幸せに暮らしていけるようにし、地球を将来世代に引き継いでいけるような社会にすること。

循環型社会

「循環型社会形成基本法」では、省資源と環境への影響を可能な限り低減するために、製品などが、廃棄物として処分されることを抑えられ、適正なリサイクルがなされ、またリサイクルできない製品等からの環境に対する悪影響が少ないように処分される社会、と定義つけられている。これに加えてエネルギー、さらに水の循環を視野に入れることが必要と言われている。

新エネルギー

石油、石炭に代わる環境への負荷の少ない新しい形態のエネルギーで、「新エネルギー導入大綱（平成6（1994）年12月16日、総合エネルギー対策推進閣僚会議決定）では、重点導

入を図るべき新エネルギーとして、次の3形態があげられている。

- ①自然エネルギーの利用を中心とした再生可能エネルギー（太陽光発電、太陽熱利用システムなど）
- ②廃棄物や廃熱の利用を中心としたリサイクル型エネルギー（廃棄物発電など）
- ③従来型エネルギーの新利用形態（熱電供給システム、燃料電池など）

新環境基本計画（京都府）

「京都府環境を守り育てる条例」に基づき、環境の保全及び創造に関する総合的かつ長期的な施策の大綱を定めるものであり、環境行政の推進に関する個別の条例、計画及びアクションプラン並びに府民と協働して取り組む具体的施策・事業などの指針となるもの。概ね令和2（2020）年度を目途として取り組んでいく施策の目標と施策展開の方向を明らかにしている。

森林ボランティア

自然体験活動を通して里山の場所づくりを楽しみながら森林保全活動を行う。

水生生物調査

水生生物を指標として河川の水質を総合的に評価するため、また環境問題への関心を高めるため、一般市民等の参加を得て全国で実施されている。

スパイラルアップ

改善が奏効しあって継続的な改良・向上に結びつくこと。「善循環」「好循環」とも言う。

3R

「リデュース（排出抑制）」、「リユーズ（再利用）」、「リサイクル（再資源化）」の頭文字（R）を取った3つの行動の総称。

生物化学的酸素要求量

⇒BODを参照

絶滅危惧種

現在生存している個体数が減少しており、絶滅の恐れの高く高い野生生物の種。

千年の森づくり基本計画（福知山市）

丹後天橋立大江山国定公園に指定された地域を重点地区として先導的に森づくりを推進するための構想「福知山千年の森づくり基本構想」に基づき、森づくりの整備の方向性や推進体制を具体的に定めた計画。

総合計画(福知山市)

地方自治体における行政運営の最上位計画で概ね10年を計画期間としている。めざす福知山市の未来の姿を描く「長期ビジョン」と、その「長期ビジョン」に掲げる都市像を実現するための5年間の基本戦略を体系化した「基本計画」とで構成される。

【タ行】

ダイオキシン

非常に強力な毒性を持つ物質で、環境ホルモンの一つ。一般に、ポリ塩化ジベンゾーパラジオキシン(PCDD)、ポリ塩化ジベンゾフラン(PCDF)、コプラナーポリ塩化ビフェニル(コプラナーPCB)をまとめてダイオキシン類と呼んでいる。日本では、ごみの焼却炉からの排出が8から9割を占めると言われている。

地球温暖化

人間による化石燃料の大量消費により大気中の二酸化炭素など温室効果ガスの濃度が増加し、地球の平均気温(現在約15℃)が高くなる現象。気温が上昇するだけでなく降雨量も大きく変化し、気候の変化も激しくなることから、正式には「気候変動(climate change)」と呼ぶ。生態系に壊滅的な打撃を与える恐れがあるとともに、異常気象による災害、干ばつや多雨などによる食料生産の悪化、利用できる淡水の減少、海水面の上昇、マラリアなど感染症の流行地域の拡大など、人間の生存と生活にも非常に大きな悪影響を及ぼすと予測されている。⇒参照「温室効果ガス」

地球温暖化対策実行計画(福知山市)

「地球温暖化対策の推進に関する法律」第21条に基づき、福知山市の事務及び事業に関し、温室効果ガス排出量の削減並びに吸収作用の保全及び強化のための具体的な方策を定めた計画。

地産地消

「地元生産—地元消費」を略した言葉で、地元で生産されたものを地元で消費するという意味で使われる。これによって、地域での循環型社会の構築を促し、また地域の農林水産業の活性化と食物の安全性の確保も目指している。

チームドッコ

福知山市で活動するマスコットキャラクター21体が「福知山に笑顔と元気を！」を合言葉に活動するユニット。

天然記念物

学術上価値の高い動物・植物・地質鉱物、およびそれらの存在する地域で、その保護・保存を指定されているもの。文化財保護法によるほか、地方公共団体の条例によっても定められる。

【ナ行】

二酸化硫黄(SO₂)

主に石油等の化石燃料に含まれる硫黄(S)が燃焼することにより大気中に排出される気体で、呼吸器に対して悪影響を及ぼす。硫酸化物(SO_x)の一種で、発生源は自動車や工場・事業場などが主。

二酸化炭素(CO₂)

地球上で最も代表的な炭素の酸化物であり、炭素単体や有機化合物の燃焼によって生じる。気体は炭酸ガス、固体はドライアイス、液体は液体二酸化炭素、水溶液は炭酸、炭酸水と呼ばれる。

二酸化窒素(NO₂)

主として物が燃焼することにより発生し、呼吸器に対して悪影響を与える。窒素酸化物(NO_x)の一種で、発生源は自動車や工場・事業場などが主。

【ハ行】

パートナーシップ

違う立場に立つ人々が、対等な関係のもとに、それぞれの特性に応じた力を出し合って相乗的な効果をあげること。環境問題の解決やまちづくりには、市民・市民団体・事業者・行政のパートナーシップが不可欠だと言われている。

廃食用油

てんぷら油など食用油の使用後の油。これを生活排水として公共用水域に排出すると水質が汚濁する。そこで水質浄化及び資源の再利用の面から、廃食用油を回収・再生し、有効利用する必要がある。廃食用油によるディーゼル燃料から出る排気ガスは、軽油のものと比べ、二酸化炭素、黒煙、硫酸化物が少ない。

バイオマス

動植物に由来する有機物である資源(原油、石油ガス、可燃性天然ガス及び石炭を除く)をいう。木材や農作物、畜産物を収穫したり加工したりする際に出る間伐材やおがくず、糞尿、菜

種油などの生物系廃棄物を原料としてエネルギーを生み出すことができる。化石燃料に由来しないため、大気中の二酸化炭素を増大させないことになり、地球温暖化防止策の一つになること、同時に農林業の活性化や廃棄物問題の解決策となり得ることなどの特徴を持っている。

バリアフリー

私たちの日常生活には様々な障害が存在する。家の中の段差やまちを歩く際の道のでこぼこ、公共交通に乗る際の階段や段差、人によってはこれらの障害によって自由な移動を制限されることになる。同様に、点字での表示がないなど、必要な情報が必要な時に得られないことや、障がい者などに対する無理解、制度的な障害もバリアのひとつである。

パリ協定

世界共通の長期目標として、世界的な平均気温の上昇を産業革命以前に比べて2度より十分下方に抑えるとともに、1.5度に抑える努力をする国際的な約束。

PM2.5

マイクロメートル(0.001ミリメートル)の大きさの固体や液体の粒子。風で舞い上がった土壌粒子、工場や建設現場で生じる粉塵、燃焼による排ガスなどの成分が大気中で変質してできる大気汚染物質。

ビオトープ(bio-tope)

生物を意味する“Bio”と場所を意味する“Tope”を合成したドイツ語で、一定のまとまりのある野生生物の生息空間を意味する。日本では、池を中心とする新たに造りだした自然的空間をビオトープと呼ぶことが多いが、池は必ずしも必要ではない。また、本来的には、自然の空間や長い時間にわたって人間が関与し、野生生物の生息空間になっている里山、里地、社寺林などがビオトープである。

BOD(Biochemical Oxygen Demand: 生物化学的酸素要求量)

水質汚濁の汚染指標の1つで、水中の微生物が一定時間内(20℃で5日間)に有機物を酸化・分解するために消費する酸素の量を示す数値。この数値が高ければ高いほど水中の有機物の量が多いことを示す。河川の汚濁をはかる代表的な指標。ただ河川の汚濁には、BODでは現われない化学物質によるものもあるので、これだけを指標にするのは危険。

BDF(Biodiesel fuel) バイオディーゼル燃料

バイオマスのうち、菜種油やひまわり油などの植物由来の油や、てんぷら油などの廃食用油から作られるディーゼルエンジン用燃料。

ヒートアイランド現象

夏に都市部の気温が周辺地域よりも高くなる現象のこと。都市では、アスファルトやビルからの輻射熱や冷房・車の排気熱などの影響により夏になると気温が突出して上がる傾向がある。この状態で等温線を描くと島の形に似て見えるためこう呼ばれる。

浮遊粒子状物質(SPM)

大気中に浮遊する粒径が $10\mu\text{m}$ (ミクロン: $1\mu\text{m}$ は、 1mm の1,000分の1)以下の粒子状物質で、呼吸器に対して悪影響を与える。発生源としては、工場、事業場等産業活動に係るものだけでなく、自動車の運行に伴って発生するもの、風による土壌粒子の舞い上がり等の自然現象によるものもある。

プロジェクト

「課題」を解決するための具体策。この計画では、市民、市民団体、事業者の取り組みや活動、行政の施策や事業、さらにこれらのパートナーシップで行う取り組みを指す。

ポケットパーク

都市の中のわずかな空間を利用し、歩行者や住民に休息や語らいを与える場所で、都市環境の向上と改善に役立たせる。

【マ行】

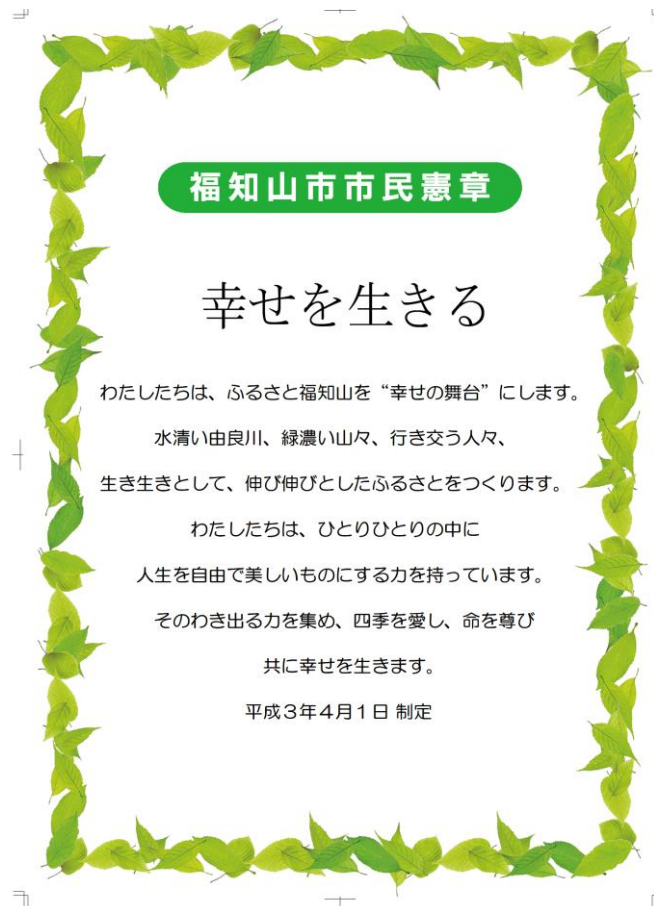
木育

木と関わることで、木に対する親しみや理解を深めることにより木を生活に取り入れたり、自ら森作りに貢献する人の育成を目指す活動。

【ラ行】

ライフスタイル

生活様式。現在は資源とエネルギーを浪費するライフスタイルであるとされている。環境問題の解決や持続可能な社会づくりのためには、経済システムとともにライフスタイルの根本的な変革が必要だとの認識が国際的になされている。



第2期福知山市環境基本計画（中間整理）

環境の環^わづくりをめざして

発行：令和3（2021）年3月

編集：福知山市 市民総務部 生活環境課

〒620-0913 福知山市字牧 285 番地

TEL：0773-22-1827 FAX：0773-22-4881

HP：<http://www.city.fukuchiyama.kyoto.jp/> E-mail：kankyou-park@city.fukuchiyama.lg.jp

表紙写真、章扉写真：東家 零子